

令和7年度 第2次菊川市総合計画進捗状況報告書

政策評価シート

菊川市

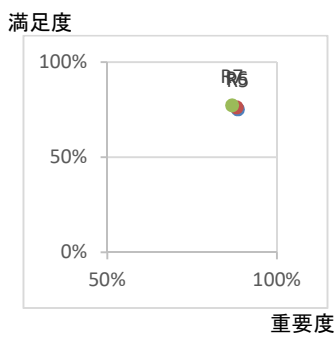
目次	基本目標1 子どもがいきいき育つまち 【子育て・教育】	1
政策1	安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり	1
政策2	親と子が健やかに成長できるまちづくり	2
政策3	安全・安心な教育環境が整ったまちづくり	3
政策4	子どもの「生きる力」を育むまちづくり	4
政策5	人を育み、若者を育てるまちづくり	5
	基本目標2 健康で元気に暮らせるまち 【保健・福祉・医療・社会教育】	6
政策1	適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり	6
政策2	高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり	7
政策3	地域のなかで、互いに支え合うまちづくり	8
政策4	障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり	9
政策5	入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり	10
政策6	生涯にわたり学べるまちづくり	11
政策7	芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり	12
政策8	スポーツが盛んなまちづくり	13
	基本目標3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち 【産業】	14
政策1	農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり	14
政策2	活力と魅力のある茶のまちづくり	15
政策3	商工業が活気あるまちづくり	16
政策4	人が訪れるまちづくり	17
政策5	消費者が安心して暮らせるまちづくり	18
	基本目標4 快適な環境で安心して暮らせるまち 【防災・環境・社会資本整備】	19
政策1	防災力を高めるまちづくり	19
政策2	交通事故・犯罪のないまちづくり	20
政策3	消防力を高めるまちづくり	21
政策4	豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり	22
政策5	良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり	23
政策6	上水道が安全に安定して供給されるまちづくり	24
	基本目標5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち【コミュニティ・自助・共助・公助】	25
政策1	市民と行政との協働によるまちづくり	25
政策2	まちの元気・魅力が発信されるまちづくり	26
政策3	性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり	27
政策4	未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり	28

政策評価シート

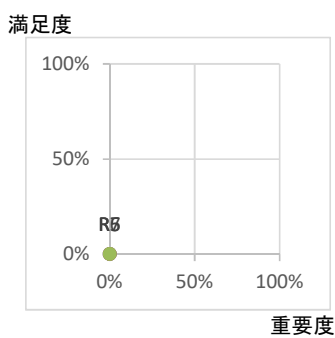
対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち														作成部署		
R7	政策	1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり														こども未来部		
		SDGsゴール	1	2	3	4	5	16										
コスト評価		事業費と割合(千円)									予算額比較(千円)							
		R5年度		R6年度		R7年度		R8年度			R5年度		R6年度		R7年度		R8年度	
	政策事業費(予算)	3,306,893		4,175,837		4,023,228		4,026,896		政策費増減額	184,950		868,944		△ 152,609		3,668	
										比較	106%		126%		96%		100%	
	政策事業費(決算)	3,222,141		4,077,138		3,895,460				一般財源増減額	52,149		87,829		△ 18,113		27,559	
										比較	105%		108%		98%		102%	
	コスト分析と課題	公定価格の改定による給付費等の増、令和6年10月から児童手当制度が改正されたことによる給付額の増、物価高対応子育て応援手当の実施等により、増額となった事業費もあるが、令和6年度に小笠北認定こども園園舎新築工事が完了し幼保施設整備事業費が減額となったため、政策事業費全体は前年度から減少した。 少子化の進行は事業費減の要因となりえるが、少子化対策を進めることにより支出額が拡大する可能性もある。事業の継続、拡大、縮小については、国・県の補助制度を活用しつつ、本市の実情に合った取り組みを展開していく必要がある。																
指標評価	総合計画											行政評価						
	1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり		単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価						
				A	B	C			D	C/D								
				H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度								
	「子育てしやすいまち」だと思ふ市民の割合		%	80.2	85.0	75.0	76.1	77.1	85.0	90.7%	現未	B						
	関連する施策																	
	幼稚園に行くことを楽しみにしている園児の割合		%	99.2	100.0	100.0	100.0	99.0	100.0	99.0%	現未	B						
	関連する施策																	
	幼児施設入所待機児童数		人	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0%	S	B						
	関連する施策																	
	子育て支援センター利用者数		人	62,520.0	67,700.0	39,073.0	40,398.0	42,358.0	67,700.0	62.6%	現未	E						
	関連する施策																	
	関連する施策																	
	関連する施策																	
指標分析と課題		教育・保育ニーズが多様化していく中、公立園においては再編、民営化、認定こども園への移行が進められた。また、民間幼保施設の認定こども園化や小規模保育事業所の開設等待機児童対策に取り組んだ結果、平成30年度から待機児童数0人の状態を継続している。 子育て支援センターは、令和7年度から開館日を1日増やし週6日開館とした。 少子化が進む中、幼保施設や子育て支援施設の在り方を見直していく必要がある。																
評価分析	関連施策																	
	施策名				担当課		指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△						
									判定評価	R9の方向性								
	成果1	成果2	コスト	成果	改善													
	1 教育・保育サービスの充実に取り組みます				こども政策課		S		A	維持	維持	①						
	2 幼児教育・保育の質の向上を目指します				こども政策課		S		A	維持	維持	①						
	3 安心できる子育て環境を整備します				こども政策課		S		A	維持	維持	①						
	4 子育て世代を応援します				子育て応援課		S		C	拡充	拡充	③						

市民アンケート結果

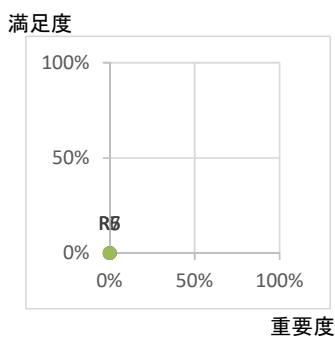
設問	1 「子育てしやすいまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	80.2%	85.0%	75.0%	76.1%	77.1%	そう思う(満足)	13.5%
						どちらかといえば思う	63.6%
						どちらかといえば思わない	15.4%
						そう思わない(不満)	3.7%
重要度			88.5%	88.2%	86.8%	重要	45.1%
						どちらかといえば重要	41.7%
						重要ではない	9.6%



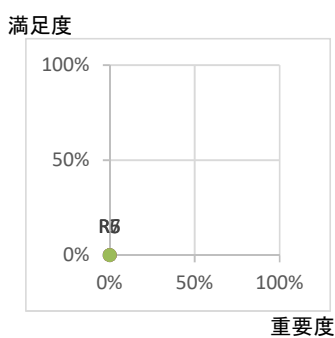
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

設問1の満足度は、増減はあるものの横ばいの結果となった。こども医療費の無償化、児童館・子育て支援センターの開館日拡大、放課後児童クラブの実施場所確保などの、ニーズに即した事業実施による効果であると思われる。満足度を向上させるためには、多様なニーズに対応できる様々な子育て支援が必要である。

総合判定評価		A	見直し・検討無し	R9年度の方向性	コスト 拡充 ↑	成果 拡充 ↑	改善 ① 政策の進め方
今後はすべての子どもの育ちを支援するために、多様化する教育・保育ニーズに対応したサービス、経済的負担を軽減する支援策、子どもと子育て家庭の居場所づくりを進めていく。 放課後児童クラブの待機児童対策等、喫緊の課題となっているものについても、方向性を決定して早急に対応していく。							

政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち														作成部署		
R7	政策	2 親と子が健やかに成長できるまちづくり														こども未来部		
		SDGsゴール	1	2	3	4	16											
コスト評価		事業費と割合(千円)									予算額比較(千円)							
		R5年度		R6年度		R7年度		R8年度			R5年度		R6年度		R7年度		R8年度	
	政策事業費(予算)	236,439		260,443		249,705		241,000		政策費増減額	△ 14,698		24,004		△ 10,738		△ 8,705	
										比較	94%		110%		96%		97%	
	政策事業費(決算)	220,612		249,887		211,047				一般財源増減額	26,731		△ 8,695		△ 19,203		△ 35,237	
										比較	115%		96%		90%		80%	
	コスト分析と課題	子宮頸がんワクチンキャッチアップ接種の接種者数が減少したことにより事業費が減額となった。不妊治療費助成制度については、令和7年度から助成内容を拡充したため、利用者が増加し事業費が増額となった。政策事業費全体では、前年度から減額している。 不妊治療費助成制度は、早期からの治療に繋ぐことができるよう、周知方法を工夫する必要がある。																
指標評価	総合計画										行政評価							
	2 親と子が健やかに成長できるまちづくり		単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価						
				A	B	C			D	C/D								
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度									
	「安心して子どもを育てられるまち」だと思 う市民の割合		%	82.5	88.0	76.8	79.1	79.3	88.0	90.1%	現未	B						
	関連する施策																	
	乳幼児健診の受診率(1歳6か月健診と3歳健 診の平均)		%	96.5	100.0	101.7	102.6	101.3	100.0	101.3%	S	B						
	関連する施策																	
	関連する施策																	
	関連する施策																	
	関連する施策																	
指標分析と課題		母子の健康の保持増進のため、積極的な乳幼児健診の受診勧奨を行い、令和2年度からは受診率を目標値以上とすることができた。 安心して出産・子育てができるよう、妊娠前から子育て期まで切れ目のない寄り添った支援に努めていく必要がある。																
評価分析	関連施策																	
	施策名				担当課		指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△						
							成果 1	成果 2	判定 評価	R9の方向性								
									コスト	成果	改善							
	1 母子保健事業の実施で親と子の健やかな成長を支援します				子育て応援課		S		A	維持	維持	①						
	2 医療費助成で親と子の健康増進を推進します				子育て応援課		S		A	維持	維持	③						
	3 子どもの成長や発達の支援に取り組みます				子育て応援課		S		A	維持	維持	①						

市民アンケート結果

総合評価

設問	1	「安心して子どもを育てられるまち」だと思 う市民の割合					
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	結果(満足度下段:達成率)				
			R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	82.4%	88.0%	76.8%	79.1%	79.3%	そう思う(満足)	16.0%
						どちらかといえば思う	63.3%
					87.3%	どちらかといえば思わない	14.2%
					90.1%	そう思わない(不満)	3.1%
重要度			89.5%	89.4%	89.6%	重要	47.5%
						どちらかといえば重要	42.1%
						重要ではない	7.3%

満足度

重要度

設問							
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	

満足度

重要度

設問							
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	

満足度

重要度

設問							
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	

満足度

重要度

結果分析	設問1の満足度は現状値、目標値を上回ることができなかった。 令和6年度に、妊産婦、子どもとその家庭の総合相談窓口として、こども家庭センター開設し切れ目のない相談支援体制を確立した。また、発達に関する相談対象を18歳までの子どもまでに拡大した。こども家庭センター開設後は相談件数が増加し、育児不安解消や児童虐待の予防・早期対応につながった。																									
	総合判定評価				A	見直し・検討無し				R9年度の方向性		コスト	成果	改善												
												維持→	維持→	①	政策の進め方											
こども家庭センター事業は、早期対応、継続支援が可能となるように、関係各課や関係機関と連携して相談・支援を行っていく。 不妊治療費助成制度や産後ケア事業については、利用しやすい事業となるよう周知の機会を増やしていく。																										

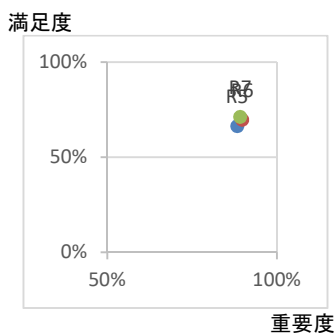
政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち														作成部署	
R7	政策	3 安全・安心な教育環境が整ったまちづくり														教育文化部	
		SDGsゴール	1	2	4												
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度							
	政策事業費(予算)	1,406,064	1,383,502	1,548,130	1,078,363	政策費増減額	149,577	△ 22,562	164,628	△ 469,767							
						比較	112%	98%	112%	70%							
	政策事業費(決算)	1,045,536	1,265,707	1,271,830		一般財源増減額	77,766	72,455	102,561	△ 99,688							
						比較	115%	112%	115%	87%							
	コスト分析と課題	前年度の小学校校内LAN更新工事関連の経費は減となったが、小学校体育館空調設備実施設計、学校給食センター設備修繕工事などの実施があったため、前年度と同程度の決算となった。社会情勢の影響による人件費・材料費の高騰が継続しており、建築工事に係るコストは上昇が継続している。また、学校施設の老朽化に伴い、修繕・維持管理の必要な箇所が増加していることに加え、照明設備のLED化、学校体育館への空調設備設置など、計画的に実施していかなければならない事業を多く抱えている。 学校給食センターの設備においても老朽化に伴い、計画的に修繕・更新を実施していくことの必要な設備・機器を有している。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	3 安全・安心な教育環境が整ったまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値		期待値	達成率	評価	指標評価							
			A	B	C		D	C/D									
		H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度									
	「子どもが安全・安心に通うことができる教育環境が整うまち」だと思う市民の割合	%	74.1	79.0	66.3	69.6	71.1	79.0	90.0%	現未	B						
	関連する施策																
	学校施設の耐震化率	%	76.9	100.0	98.1	98.1	98.1	100.0	98.1%	B	B						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
指標分析と課題	令和5年度をもって市立小中学校の耐震補強工事は完了し、令和6年度に菊川東中学校の技術棟を校舎の空き教室に移設し、授業等で利用しない建物としたことで、実質的な耐震化率は100%を達成した。市民アンケートの評価は、社会情勢の影響を大きく受けるものであり、コロナ禍の時期に下降したが、地域による見守り活動などが近年の上昇につながっているものとする。																
関連施策																	
評価分析	施策名				担当課		指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△					
							成果1	成果2	判定評価	R9の方向性							
										コスト	成果	改善					
	1 学校施設を適正に維持管理し耐震化や長寿命化に努めます				教育総務課		B		B	拡充	維持	①					
	2 安全で安心して教育が受けられる環境づくりに努めます				学校教育課		S		A	維持	維持	①					
	3 安全でおいしい給食を安定的に提供します				教育総務課		S		B	拡充	維持	①					

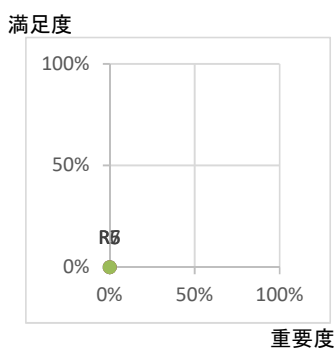
市民アンケート結果

総合評価

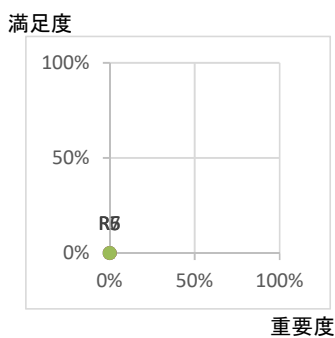
設問	1		「子どもが安全・安心に通うことができる教育環境が整うまち」だと思う市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	74.1%	79.0%	66.3%	69.6%	71.1%	そう思う(満足)	12.0%
						どちらかといえば思う	59.1%
						どちらかといえば思わない	20.9%
						そう思わない(不満)	4.6%
重要度			88.3%	89.8%	89.2%	重要	47.8%
						どちらかといえば重要	41.4%
						重要ではない	7.8%



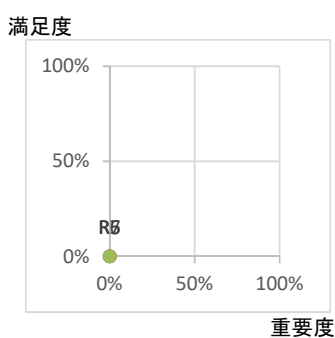
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

本指標の満足度は社会情勢の影響を大きく受けるものであり、コロナ禍の時期に低下した後、ここ3年は上昇傾向にある。学校施設の耐震補強工事の実施や学校教室への空調設備の導入、保護者に対する「きずなメール」による迅速な情報連絡体制の整備などの取り組みとともに、地域で子どもたちを見守る取組を進めてきたことが現在の評価につながっているものとする。

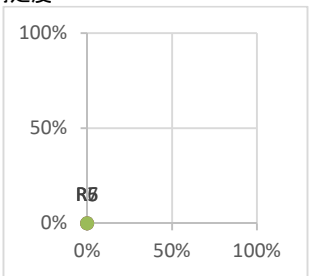
総合判定評価	A	見直し・検討無し	R9年度の方向性	コスト	成果	改善	
				維持→	維持→	③	政策内容
少子化による児童数の減少に伴い、今後の学校施設の在り方について検討の必要な状況が生じている。過度な投資や二重投資とならないように注意を払ったうえで、老朽化が進む学校施設・設備の適正な維持管理を行うとともに、照明設備のLED化、校舎のバリアフリー化、体育館・特別教室へのエアコン設置などを進め、子供たちにとって安全・安心な教育環境を確保していく。							

政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち														作成部署	
R7	政策	4 子どもの「生きる力」を育むまちづくり														教育文化部	
		SDGsゴール	4	17													
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度							
	政策事業費(予算)	278,839	291,557	351,587	181,132	政策費増減額	45,700	12,718	60,030	△ 170,455							
						比較	120%	105%	121%	52%							
	政策事業費(決算)	273,297	282,460	346,194		一般財源増減額	52,194	17,088	22,852	△ 131,308							
						比較	125%	106%	108%	57%							
	コスト分析と課題	令和7年度の決算額は、年度末に受け入れた寄附金(40,000千円)を教育振興基金に積み立てたことに加え、教職員用の新規校務支援システムの導入、小中学校配置の会計年度任用職員報酬等の増額などがあったため、前年度から大きく増加している。 会計年度任用職員の報酬等については、今後も最低賃金の引上げが続くことが見込まれるため、増加傾向が続いていく。事務の効率化などにより他の経費を抑制していく必要がある。一方、学習環境の整備に要する経費や、最適な学びを提供するための支援員配置に要する経費などについては、所要額を確保していく必要がある。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	4 子どもの「生きる力」を育むまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価						
			A	B	C			D	C/D								
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度								
	「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合<小学校>	％	92.0	93.0	93.1	93.1	94.9	93.0	102.0%	S	B						
	関連する施策																
	「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合<中学校>	％	87.3	90.0	92.7	92.6	93.5	90.0	103.9%	S	B						
	関連する施策																
	「授業がわかる」と答える児童生徒の割合<小学校>	％	91.9	93.0	91.6	92.8	92.4	93.0	99.4%	B	B						
	関連する施策																
	「授業がわかる」と答える児童生徒の割合<中学校>	％	83.4	85.0	86.0	85.6	87.2	85.0	102.6%	S	B						
	関連する施策																
	「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒の割合<小学校>	％	90.6	91.0	93.0	94.2	94.2	91.0	103.5%	S	B						
	関連する施策																
	「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒の割合<中学校>	％	80.4	85.0	88.0	88.5	90.6	85.0	106.6%	S	B						
	関連する施策																
	全国学力学習状況調査における平均正答率(全国を100)	％	103.7	104.7	99.2	99.6	101.6	104.7	97.0%	現未	B						
関連する施策																	
指標分析と課題	学校評価において「学校が楽しい」「授業がわかる」「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒の割合は、5つの項目で令和7年度目標値を上回った。友達のことを大切にしながら課題を解決する協働的な学びの充実や、一人一台端末の配置により自分のペースで復習や発展学習ができる個別最適な学びの環境整備が進められた結果によるものとする。学力学習状況調査の結果は、対象の生徒集団が入れ替わる影響を受けるが、上記の取組により、ここ3年は上昇傾向にある。引き続き、ICTを活用した授業の充実などきめ細かな対応を行っていく必要がある。																
評価分析	関連施策																
	施策名				担当課		指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△					
							成果1	成果2	判定評価	R9の方向性							
									コスト	成果	改善						
	1 ICT環境を生かした魅力ある授業づくりを推進します				学校教育課		B	S	A	維持	維持	①					
	2 「一人ひとりが生きる教育」を推進します				学校教育課		現未		A	維持	維持	①					
	3 中学校区等を核とした学びの環境づくりを推進します				学校教育課		S		A	拡充	維持	①					

設問											
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度						
満足度									そう思う(満足)		
									どちらかといえば思う		
									どちらかといえば思わない		
									そう思わない(不満)		
重要度									重要		
									どちらかといえば重要		
									重要ではない		

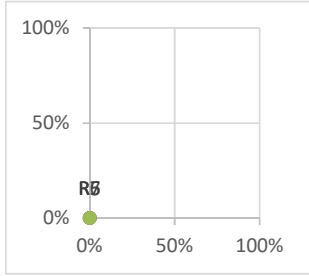
満足度



重要度

設問											
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度						
満足度									そう思う(満足)		
									どちらかといえば思う		
									どちらかといえば思わない		
									そう思わない(不満)		
重要度									重要		
									どちらかといえば重要		
									重要ではない		

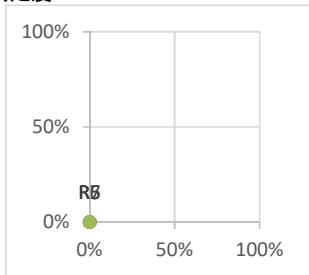
満足度



重要度

設問											
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度						
満足度									そう思う(満足)		
									どちらかといえば思う		
									どちらかといえば思わない		
									そう思わない(不満)		
重要度									重要		
									どちらかといえば重要		
									重要ではない		

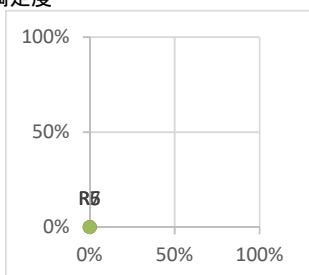
満足度



重要度

設問											
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度						
満足度									そう思う(満足)		
									どちらかといえば思う		
									どちらかといえば思わない		
									そう思わない(不満)		
重要度									重要		
									どちらかといえば重要		
									重要ではない		

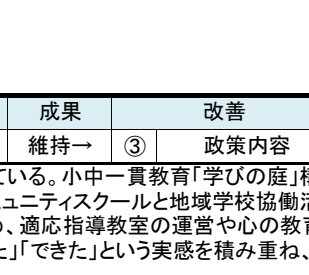
満足度



重要度

設問											
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度						
満足度									そう思う(満足)		
									どちらかといえば思う		
									どちらかといえば思わない		
									そう思わない(不満)		
重要度									重要		
									どちらかといえば重要		
									重要ではない		

満足度



重要度

結果分析		※市民アンケート結果なし									
総合判定評価		B 軽微な見直し検討(一部施策)				R9年度の方向性		コスト	成果	改善	
								維持→	維持→	③	政策内容

少子化による児童数減少に伴い、小規模学校における教育の在り方を検討していくことが必要となっている。小中一貫教育「学びの庭」構想に取り組み、学舎の目指す子ども像の実現にむけて、園・小・中・高の連携の充実を図るとともに、コミュニティスクールと地域学校協働活動を一体的に進め、「地域の財を生かした教育」を進めていく。また、ICTを活用した授業の推進をはじめ、適応指導教室の運営や心の教育相談員による支援などのきめ細かな指導の実施により、すべての学校において、一人ひとりが「わかった」「できた」という実感を積み重ね、自己肯定感や学ぶ意欲を高められるよう、授業改善や学習環境の充実を図っていく。

政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち														作成部署	
R7	政策	5 人を育み、若者を育てるまちづくり														教育文化部	
		SDGsゴール	4	17													
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度							
	政策事業費(予算)	15,233	16,759	17,889	34,845	政策費増減額	△ 274	1,526	1,130	16,956							
						比較	98%	110%	107%	195%							
	政策事業費(決算)	14,804	16,285	17,142		一般財源増減額	△ 308	1,408	1,109	16,581							
						比較	98%	109%	107%	195%							
	コスト分析と課題	各種講座やイベントなどの子どもたちの学習活動に係る事業費に大きな変動は無いが、会計年度任用職員の報酬等について、最低賃金の引上げなどの影響により、決算額が増となっている。国による最低賃金の引上げは、今後しばらくは続くものと見込まれることから、会計年度任用職員の雇用に係る経費の増加分を事務の効率化などの方法により確保していく必要がある。															
指標評価	総合計画											行政評価					
	5 人を育み、若者を育てるまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価						
			A	B	C			D	C/D								
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度								
	「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市	%	72.4	82.0	64.3	68.9	69.1	82.0	84.3%	現未	C						
	関連する施策																
	12歳以下の児童図書年間貸出冊数(1人あたり)	冊	28.7	33.0	31.9	32.5	28.5	33.0	86.4%	現未	C						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
関連する施策																	
指標分析と課題	市民アンケートの指標はコロナ禍の時期に大きく下降したが、令和6年度からは上昇傾向に転じた。市の広報紙やSNSを通じて、子どもたちのために地域の方々々が活動されている姿が広く周知される状況に至ったことが影響しているものとする。今後は、コミュニティ・スクール活動などの充実を図り、引き続き、地域と一体となって子どもたちの教育を進めていく必要がある。一、児童に対する貸出冊数の減少は、少子化に伴う貸出対象の親子の数自体の減少によるものとする。利用者の掘り起こしやニーズに合った図書資料の提供に努めていく必要がある。																
評価分析	関連施策																
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△									
			成果1	成果2	判定評価	R9の方向性											
			コスト	成果	改善												
	1 地域で子どもを守り育てる取り組みを進めます	社会教育課	S		B	維持	拡充	①									
	2 家庭の教育力向上に取り組めます	社会教育課	S		A	維持	維持	①									
	3 子どもの読書活動を推進します	図書館	現未		A	維持	維持	③									

市民アンケート結果

総合評価

設問	1	「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市														
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	結果(満足度下段:達成率)													
			R5年度	R6年度	R7年度											
満足度	72.4%	82.0%	64.3%	68.9%	69.1%	そう思う(満足)					11.4%					
						どちらかといえば思う					57.7%					
			78.4%	84.0%	84.3%	どちらかといえば思わない					24.0%					
						そう思わない(不満)					3.4%					
重要度			86.8%	88.6%	86.0%	重要					38.5%					
						どちらかといえば重要					47.5%					
						重要ではない					11.0%					

満足度

重要度

設問																
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	R5年度	R6年度	結果(満足度下段:達成率)											
					R7年度											
満足度					そう思う(満足)											
					どちらかといえば思う											
					どちらかといえば思わない											
					そう思わない(不満)											
重要度					重要											
					どちらかといえば重要											
					重要ではない											

満足度

重要度

設問																
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	R5年度	R6年度	結果(満足度下段:達成率)											
					R7年度											
満足度					そう思う(満足)											
					どちらかといえば思う											
					どちらかといえば思わない											
					そう思わない(不満)											
重要度					重要											
					どちらかといえば重要											
					重要ではない											

満足度

重要度

設問																
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	R5年度	R6年度	結果(満足度下段:達成率)											
					R7年度											
満足度					そう思う(満足)											
					どちらかといえば思う											
					どちらかといえば思わない											
					そう思わない(不満)											
重要度					重要											
					どちらかといえば重要											
					重要ではない											

満足度

重要度

設問																
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	R5年度	R6年度	結果(満足度下段:達成率)											
					R7年度											
満足度					そう思う(満足)											
					どちらかといえば思う											
					どちらかといえば思わない											
					そう思わない(不満)											
重要度					重要											
					どちらかといえば重要											
					重要ではない											

満足度

重要度

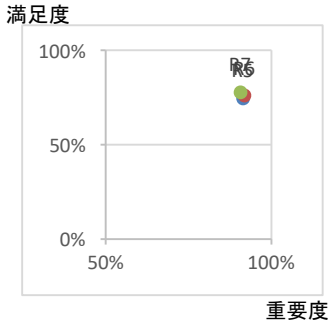
結果分析	本指標はコロナ禍の時期に大きく下降し、令和6年度からは上昇傾向に転じた。市の広報紙やSNSを通じて、子どもたちのために地域の方々が活動されている姿が広く周知され、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てていると認知が進んだものと考ええる。一方で、コロナ禍以前の水準までは戻っていないのは、当該期間に地域の活動に対する意識の変化や活動自体の縮小などがあり、その影響が現在まで引き続いていることによるものと考ええる。																
総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)				R9年度の方向性	コスト 維持→	成果 維持→	改善 ③		政策内容						
次世代を担う子どもたちが、地域と触れ合い、健やかに成長できるよう地域・家庭・学校が連携して健全育成に向けた活動を地域ぐるみで進めていく。青少年健全育成事業や放課後子ども教室など地域や企業など多様な主体の皆様にご協力をいただきながら、子どもたちや若者を育ていく環境の充実を図っていく。また、保護者同士の交流や親子の触れ合いを通じて、家庭教育について考える機会を創出するため、家庭教育学級の取組の充実を図っていく。図書館では、電子図書館サービスなど利用者のニーズに対応した図書館サービスを提供することで、豊かな読書体験の提供や読書活動の啓発を行っていく。																	

政策評価シート

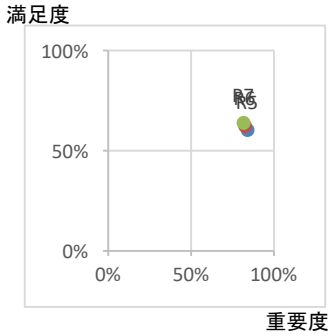
対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち																作成部署	
R7	政策	1 適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり																健康福祉部	
		SDGsゴール	3																
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)												
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度									
	政策事業費(予算)	399,523	262,960	176,443	155,757	政策費増減額	△ 163,529	△ 136,563	△ 86,517	△ 20,686									
						比較	71%	66%	67%	88%									
	政策事業費(決算)	342,745	223,354	159,233		一般財源増減額	23,195	57,969	△ 55,685	△ 26,601									
						比較	118%	138%	73%	83%									
	コスト分析と課題	令和3年度から5年度にかけて特例臨時接種として実施した新型コロナウイルスワクチン予防接種事業や、令和4年度には出張健康相談事業実施に必要な資器材の購入、令和5年度に策定した「第3次菊川すこやかプラン」が完了したことで、令和6年度以降、事業費が減少した。 「第3次菊川すこやかプラン(令和6～17年度)」に基づき、出張健康相談事業や健康マイレージ事業、各種検診・予防接種事業等、概ね計画どおり実施することができた。 引き続き、健康寿命の延伸と健康格差の縮小のために必要な事業の予算確保及び適切な執行をしていく必要がある。																	
指標評価	総合計画											行政評価							
	1 適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価								
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度										
	「心身ともに健やかに生活できるまち」だと思う市民の割合	%	79.5	85.0	74.6	76.1	77.7	85.0	91.4%	現未	B								
	関連する施策																		
	「健康づくりに取り組む人が増えているまち」だと思う市民の割合	%	65.3	75.0	60.3	62.3	63.9	75.0	85.2%	現未	C								
	関連する施策																		
	「健診や健康相談など病気の予防対策が充実しているまち」だと思う市民の割合	%	65.5	76.0	65.3	68.1	68.7	76.0	90.4%	B	B								
	関連する施策																		
	一般成人 栄養のバランスに「気をつけている」と「少し気をつけている」人の割合	%	88.4	90.0	R11実施	R11実施	R11実施	90.0	-	-	-								
	関連する施策																		
	一般成人 「普段運動をしている」人の割合	%	37.9	45.0	R11実施	R11実施	R11実施	45.0	-	-	-								
	関連する施策																		
	関連する施策																		
	関連する施策																		
指標分析と課題	健康寿命の延伸と健康格差の縮小を図るため、これまで「菊川すこやかプラン」に基づき、「食育・食生活」や「運動」など6つの領域について、市民一人ひとりが自分の健康に関心を持ち、健康的な生活習慣を実践できるようライフステージ別による健康づくり事業を実施してきた。 指標評価において、いずれも目標値には届かなかったものの、概ね横ばい傾向で維持しており、指標評価1～3については、令和6年度より実績値は上昇している。令和5年度から本格的に実施している出張健康相談事業や、静岡県が算出している「市町別お達者年齢」の公表による効果が表れていると考える。 引き続き、「第3次菊川すこやかプラン(令和6～17年度)」における目標値の達成に向け、健康づくり事業を推進していく必要がある。																		
評価分析	関連施策																		
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△											
			成果 1	成果 2	判定 評価	R9の方向性													
					コスト	成果	改善												
	1 健康増進事業の実施によりみんなの健康を作ります	健康づくり課	S		B	維持	拡充	③											
	2 検診事業の実施によりみんなの健康を維持します	健康づくり課	現未		A	維持	維持	①											
	3 心の健康事業の実施によりみんなの心の健康を作ります	健康づくり課	現未		A	維持	維持	①											
4 予防接種事業の実施により疾病予防を行います	健康づくり課	S	S	C	縮小	維持	③												

市民アンケート結果

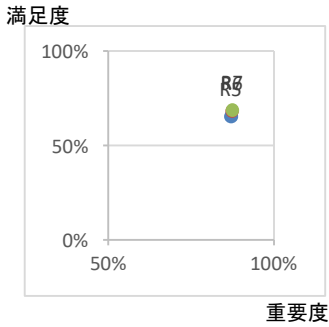
設問	1	「心身ともに健やかに生活できるまち」だと思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度			
満足度	79.4%	85.0%	74.6%	76.1%	77.7%	そう思う(満足)		14.6%
						どちらかといえば思う		63.1%
						どちらかといえば思わない		18.1%
						そう思わない(不満)		2.8%
重要度			91.4%	91.8%	90.6%	重要		41.0%
						どちらかといえば重要		49.6%
						重要ではない		7.4%



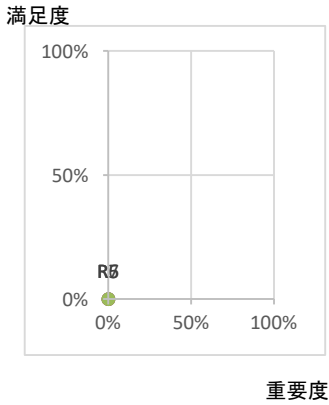
設問	2	「健康づくりに取り組む人が増えているまち」だと思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度			
満足度	65.3%	75.0%	60.3%	62.3%	63.9%	そう思う(満足)		7.2%
						どちらかといえば思う		56.7%
						どちらかといえば思わない		30.3%
						そう思わない(不満)		3.5%
重要度			83.9%	82.4%	81.5%	重要		24.4%
						どちらかといえば重要		57.1%
						重要ではない		16.1%



設問	3	「健診や健康相談など病気の予防対策が充実しているまち」だと思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度			
満足度	65.5%	76.0%	65.3%	68.1%	68.7%	そう思う(満足)		11.8%
						どちらかといえば思う		56.9%
						どちらかといえば思わない		25.4%
						そう思わない(不満)		4.3%
重要度			87.0%	87.3%	87.4%	重要		38.8%
						どちらかといえば重要		48.6%
						重要ではない		10.8%



設問								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



結果分析

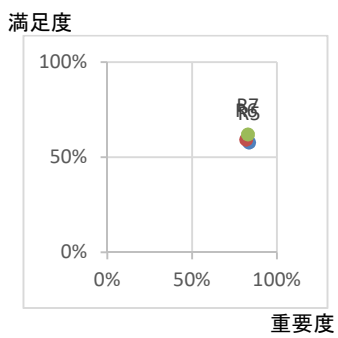
満足度や重要度について、増減はあるものの、横ばい傾向が続いている。
特に「健診や健康相談などの病気の予防対策が充実しているまち」だと思う市民の割合については、出張健康相談事業の浸透や、菊川市の男性についてお達者年齢が3年連続県内第1位となる等、健康増進に関する事業の充実やSNSを活用した啓発により、開始時より満足度が3.2ポイント上昇し、令和7年度は過去最高となった。
引き続き、さらなる満足度や重要度向上に向け、若い年代から健康づくりに取り組んでもらえるよう、庁内における組織横断的な取組や企業連携等により、長期的な視点で効果的な事業を行っていく必要がある。

政策評価シート

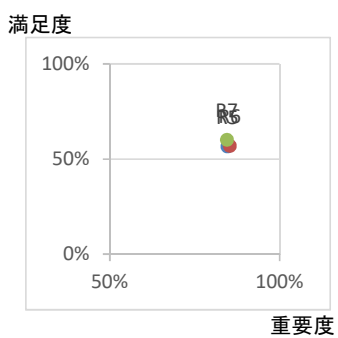
対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち														作成部署	
R7	政策	2 高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり														健康福祉部	
		SDGsゴール	1	3	8	10	17										
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度							
	政策事業費(予算)	691,790	682,218	710,160	746,103	政策費増減額	22,579	△ 9,572	27,942	35,943							
						比較	103%	99%	104%	105%							
	政策事業費(決算)	664,815	659,981	696,066		一般財源増減額	12,829	12,129	9,143	23,983							
						比較	102%	102%	101%	104%							
	コスト分析と課題	対象者の増加に伴う敬老事業経費の増加や、介護保険給付費の増加等による介護保険特別会計への繰出金が増加したものの、遺贈寄附を受けた潮海寺地内の土地等の利活用を図るための事業費の減額や在宅福祉サービス事業費の減額により、全体事業費の決算額は減少となった。 敬老会の開催をはじめ、在宅福祉サービスや介護サービスを提供するための各事業は適切に実施できている。 今後も高齢者数の増加が続くことから、介護予防事業や在宅福祉サービスの実施や安定的な介護保険サービスの提供のため、適切な予算確保及び執行に努める必要がある。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	2 高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価						
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度								
	「高齢者が生きがいを持ち、健やかに暮らせるまち」だと思ふ市民の割合	%	59.9	70.0	57.6	59.2	61.8	70.0	88.3%	B	C						
	関連する施策																
	「高齢者とその家族を支える介護サービスが充実しているまち」だと思ふ市民の割合	%	55.9	66.0	56.5	56.8	60.0	66.0	90.9%	B	B						
	関連する施策																
	要支援・要介護認定を受けていない高齢者の割合	%	85.2	82.8	85.6	85.5	84.7	82.8	102.3%	S	B						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
関連する施策																	
指標分析と課題	3年ごと策定する「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づき、高齢者ができる限り住み慣れた地域で、生きがいを感じながら安心していきいきと暮らし続けることができるよう、各種施策について取組を進めてきた。 各指標評価について、目標値には届いていないものもあるが、実績値は上昇しており、これまでの高齢者施策や介護予防事業等の実施による効果が表れていると考える。「要支援・要介護認定を受けていない高齢者の割合」については、目標値は達成したものの、令和6年度より0.8ポイント悪化し、平成30年度をピークに徐々に低下してしまっている。 今後もしばらく高齢者の増加により、要介護認定率の上昇も見込まれるため、「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づき、介護予防や認知症施策、在宅医療・介護連携等に関する事業を充実していく必要がある。																
評価分析	関連施策																
	施策名			担当課			指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△					
							成果1	成果2	判定評価	R9の方向性							
										コスト	成果	改善					
	1 高齢者の介護予防と生きがいづくりを進めます			長寿介護課			C		A	拡充	拡充	②					
	2 地域包括ケアの体制を充実します			長寿介護課			S		A	維持	拡充	①					
	3 高齢者の生活を支援する介護サービスを推進します			長寿介護課			S		A	維持	維持	①					

市民アンケート結果

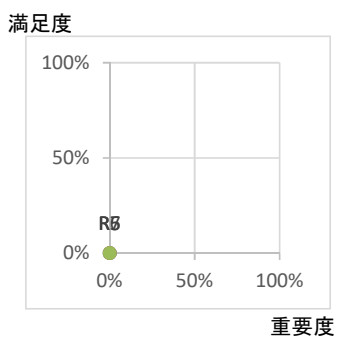
設問	1	「高齢者が生きがいを持ち、健やかに暮らせるまち」だと思ふ市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	59.9%	70.0%	57.6%	59.2%	61.8%	そう思う(満足)	8.7%
						どちらかといえば思う	53.1%
						どちらかといえば思わない	32.3%
						そう思わない(不満)	4.3%
重要度			83.7%	82.0%	82.9%	重要	32.9%
						どちらかといえば重要	50.0%
						重要ではない	15.1%



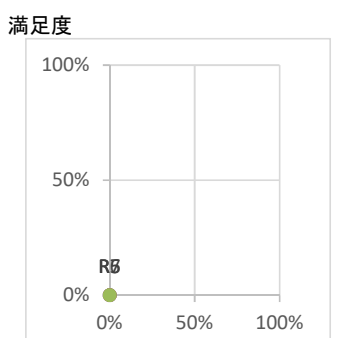
設問	2	「高齢者とその家族を支える介護サービスが充実しているまち」だと思ふ市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	55.9%	66.0%	56.5%	56.8%	60.0%	そう思う(満足)	7.9%
						どちらかといえば思う	52.1%
						どちらかといえば思わない	33.2%
						そう思わない(不満)	4.9%
重要度			84.7%	85.4%	84.5%	重要	39.3%
						どちらかといえば重要	45.2%
						重要ではない	13.5%



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

設問1・2の満足度及び重要度については、前年度より上昇した。開始時からの満足度と比較しても上昇している。コロナ禍により介護予防事業や介護保険サービス利用が一時制限されたが、その後は制限なくできるようになったこと、また、3年ごと策定する「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づき、これまで進めてきた各種施策の充実により、満足度は上昇したと考える。重要度については、高齢者人口や高齢化率が年々増加していることから、市民の認識も増していると考える。

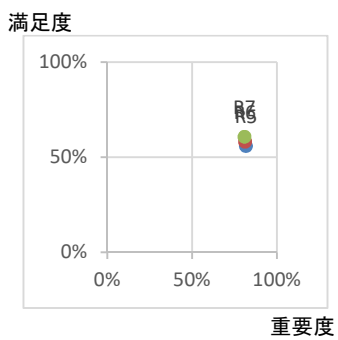
総合判定評価		B	軽微な見直し検討(一部施策)	R9年度の方向性	コスト 拡充↑	成果 拡充↑	改善 ③	政策内容
団塊の世代がすべて75歳以上となった2025年以降は、医療や介護の支援を必要とする人や、独居高齢者及び高齢者のみ世帯の増加が見込まれていることから、高齢者を地域全体で支える仕組みづくりを行うことで、高齢者が孤立することなく住み慣れた地域で、元気にいきいきと暮らすことのできる環境を整備していくことが必要となる。 現行の「菊川市第10次高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」が令和8年度に計画の最終年次を迎えることから、次期計画を策定するとともに、「第3次菊川市総合計画」の将来像の実現を踏まえ、「高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり」を目指し、地域包括ケアシステムの深化・推進に取り組んでいく。								

政策評価シート

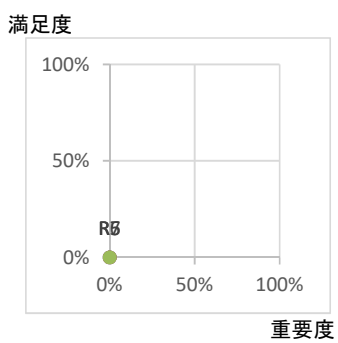
対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち														作成部署	
R7	政策	3 地域のなかで、互いに支え合うまちづくり														健康福祉部	
		SDGsゴール	1	3	10	11	17										
コスト 評価		事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)									
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度							
	政策事業費(予算)	823,592	498,404	351,460	386,808	政策費増減額	355,618	△ 325,188	△ 146,944	35,348							
							比較	176%	61%	71%	110%						
	政策事業費(決算)	774,447	480,982	336,169		一般財源増減額	15,840	△ 16,712	△ 7,107	12,826							
							比較	110%	91%	96%	108%						
	コスト分析と課題	令和5年度から実施したブラザげやき照明設備のLED化工事の実施等により、事業費が増加した年度があったが、工事が完了したことや福祉事業費補助金に係る支出の減少、そのほか、令和6年度も国の総合経済対策に基づく低所得世帯に対する給付金事業を実施したが、対象者や給付金額など事業内容の違い等により、全体的な事業費は前年度より減少した。 ブラザげやきは建設から25年が経過し、修繕箇所も増えていることから、公共施設個別施設計画を目的としながらも、状況に応じた予算確保や整備を行っていく必要がある。 また、地域福祉活動推進のための事業や運営費補助金の予算確保、生活困窮者等に係る対応等、社会情勢に沿った対策を行っていく必要がある。															
指標 評価	総合計画										行政評価						
	3 地域のなかで、互いに支え合うまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度								
	「市民同士が地域で互いに支え合うことができているまち」だと思う市民の割合	%	65.0	75.0	55.8	58.0	60.6	75.0	80.8%	現未	C						
	関連する施策																
	コミュニティ協議会の福祉部会に携わる人数	人	200.0	220.0	143.0	131.0	133.0	220.0	60.5%	現未	E						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
関連する施策																	
指標分析と課題	少子高齢化・人口減少等の社会構造が変化する中で、関連部署や関係機関、市民等と連携しながら地域を共に創っていく「地域共生社会」の実現に向け、「菊川市地域福祉計画・地域福祉活動計画」に基づき取組を進めてきた。 指標評価については、両方とも目標値には達成していないが、指標評価1については、昨年度より2.6ポイント上昇し、近年では最も高い実績値となった。指標評価2については、コロナ禍の影響や地域福祉活動に関わる構成員の高齢化、高齢者の就業人口の増加等が影響し、回復がみられていない。 今後も社会情勢の変化に対応しながら、生活困窮者や避難行動要支援者への対応等、地域福祉計画に沿った取組を進めていく必要がある。																
評価 分析	関連施策																
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△									
			成果 1	成果 2	判定 評価	R9の方向性											
			成果 1	成果 2	判定 評価	コスト	成果	改善									
	1 地域における市民の福祉活動を支援します	福祉課	現未		A	拡充	拡充	①	拡充化○								
	2 地域福祉の担い手を育成・支援します	福祉課	現未		A	維持	維持	①	拡充化○								
	3 地域のなかでの自立した生活を応援します	福祉課	現未		A	拡充	拡充	①									

市民アンケート結果

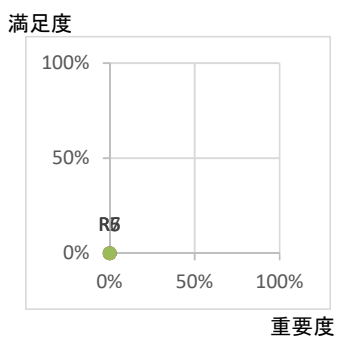
設問		1		「市民同士が地域で互いに支え合うことができるまち」だと思う市民の割合			
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	64.9%	75.0%	55.8%	58.0%	60.6%	そう思う(満足)	6.5%
						どちらかといえば思う	54.1%
			74.4%	77.3%	80.8%	どちらかといえば思わない	33.3%
						そう思わない(不満)	4.2%
重要度			81.8%	81.2%	81.0%	重要	25.0%
						どちらかといえば重要	56.0%
						重要ではない	16.8%



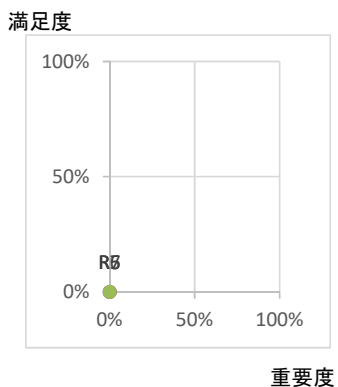
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度					そう思う(満足)		
					どちらかといえば思う		
					どちらかといえば思わない		
					そう思わない(不満)		
重要度					重要		
					どちらかといえば重要		
					重要ではない		



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

少子・高齢化や昨今の経済状況の変化等により、複雑化・複合化した生活課題に対応しなければならない状況が増えており、地域共生の必要性や重要性は認識されているものとする。しかし、地域福祉活動に関わる構成員の高齢化や高齢者の就業人口の増加、コロナ禍における生活困窮や地域福祉活動制限の影響により、以前と同様の状況に戻していくことは容易ではない。
地域でのつながりの希薄化や、今後も核家族化や高齢者のみ世帯等の増加が見込まれることから、地域共生社会の実現に向け、必要性や重要性について再認識してもらえような取組を引き続き行っていく必要がある。

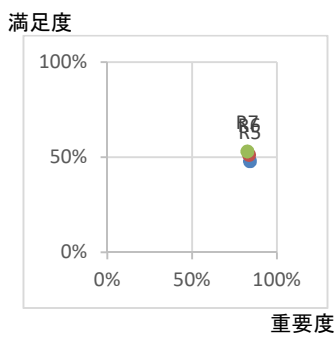
総合判定評価	B	軽微な見直し検討（一部施策）	R9年度の方向性	コスト	成果	改善	
				維持→	拡充↑	③	政策内容
現行の「第4次菊川市地域福祉計画・地域福祉活動計画」が令和8年度末に計画の最終年次を迎えることから、「第3次菊川市総合計画」に定められた将来像の実現を踏まえ、次期計画を策定する必要がある。							
「地域の幸せを互いに創り、支え合うまちづくり」を進めるためには、複雑化・複合化した課題に対応する包括的支援体制の構築や、近年頻発する自然災害に対し、避難行動要支援者への対応をはじめ、地域福祉への理解の醸成や、地域福祉に関わる活動者の拡大等、「菊川市地域福祉計画・地域福祉活動計画」に基づき、地域共生社会の実現に向け、引き続き、各種取組を進めていく必要がある。							

政策評価シート

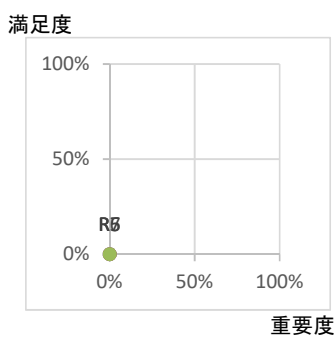
対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち														作成部署	
R7	政策	4 障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり														健康福祉部	
		SDGsゴール	3	8	10												
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度							
	政策事業費(予算)	1,343,502	1,535,418	1,689,374	1,652,810	政策費増減額	120,804	191,916	153,956	△ 36,564							
						比較	110%	114%	110%	98%							
	政策事業費(決算)	1,311,879	1,470,194	1,632,224		一般財源増減額	50,886	49,962	78,850	△ 11,060							
						比較	112%	111%	115%	98%							
	コスト分析と課題	各種障害福祉サービスについて、利用者の増加や一人当たりのサービス量の増加等により、事業費は年々増加している。 施策の多くが国が定める障害福祉サービスの事業費であり、障がいのある人やその家族の生活や活動を支えるために必要な事業でもあることから事業費の削減は難しいが、相談事業所等と連携しながらサービス提供の適正化を図るとともに、適正かつ迅速な支給決定及び予算の確保をしていく必要がある。 また、東遠学園組合の運営に関しては、必要な人件費の確保や、施設の老朽化に伴う長寿命化対策について計画的に進めていく必要がある。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	4 障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C		期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価							
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度			R7年度						
	「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思う市民の割合	%	43.5	59.0	47.8	51.1	53.0	59.0	89.8%	B	C						
	関連する施策																
	自立支援給付等決定対象者数	人	363.0	482.0	555.0	609.0	647.0	482.0	134.2%	S	S						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	指標分析と課題	障がいの有無にかかわらず、全ての人が社会の一員として、様々な活動への参加を通じて互いの理解を深め、尊重し合い、支え合うことで、安心して地域での生活を継続することができるよう、障害福祉サービス事業を実施した。 指標評価1について、目標値の達成はしていないが、療育に関する施設の充実や地域の相談支援に係る体制が強化されたこと等により、市民の認識も高まったのではないかと考える。また、指標評価2については、平成27年度と比較すると、身体障害者手帳等の手帳保持者が年々増加し、サービス事業所数も増加していることが要因であると考え る。 サービスを必要とする人が、必要とするサービスを受けることができるよう適切な相談支援をするとともに、障害福祉サービス提供体制の整備や適正化、予算や人材の確保を行っていく必要がある。															
評価分析	関連施策																
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△									
			成果1	成果2	判定評価	R9の方向性			コスト	成果	改善						
	1 障がいのある人の自立した生活を支援します	福祉課	S		A	拡充	拡充	①	拡充化○								
	2 障がいのある人の地域での活動を促進します	福祉課	B		A	拡充	拡充	②	拡充化○								
	3 障がいのある子どもの福祉サービスを充実します	福祉課	S		A	拡充	拡充	②	拡充化○								

市民アンケート結果

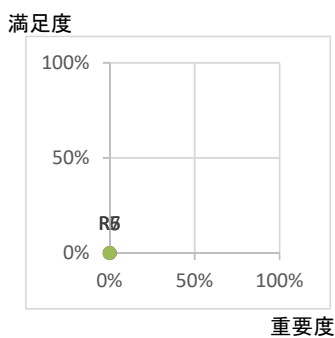
設問	1 「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	43.5%	59.0%	47.8%	51.1%	53.0%	そう思う(満足)	5.0%
						どちらかといえば思う	48.0%
						どちらかといえば思わない	39.1%
						そう思わない(不満)	5.7%
重要度			84.2%	83.7%	82.7%	重要	32.0%
						どちらかといえば重要	50.7%
						重要ではない	15.0%



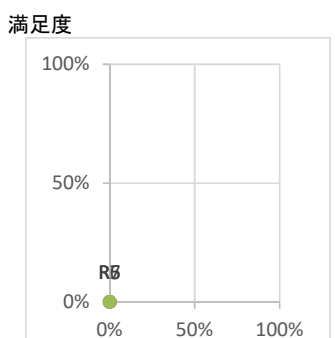
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち													作成部署	
R7	政策	5 入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり													菊川病院	
		SDGsゴール	3	17												
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)									
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度						
	政策事業費(予算)	1,183,739	1,085,907	1,100,562	1,156,527	政策費増減額	△ 45,897	△ 97,832	14,655	55,965						
						比較	96%	92%	101%	105%						
	政策事業費(決算)	1,182,603	1,085,903	1,100,551		一般財源増減額	△ 14,272	△ 110,449	19,225	44,444						
						比較	99%	91%	102%	104%						
	コスト分析と課題	令和6年度からは、経営支援を目的とした「基準外」の繰入れが廃止され大幅な減額となった。令和7年度は、物価高騰支援事業を利用した基準外の繰入れがされたが、収益増を上回る費用増が経営改善の大きな壁となっている。基準外の経営支援に依存しないよう、菊川市立総合病院第5次中期計画の確実な推進に取り組んでいく。														
指標評価	総合計画											行政評価				
	5 入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価					
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度							
	「入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまち」だと思う市民の割合	%	46.7	62.0	51.5	50.0	54.0	62.0	87.1%	B	C					
	関連する施策															
	菊川病院への紹介率	%	35.6	40.0	49.3	48.5	43.1	40.0	107.8%	S	B					
	関連する施策															
	菊川病院からの逆紹介率	%	27.7	30.0	34.2	31.9	31.3	30.0	104.3%	S	B					
	関連する施策															
	関連する施策															
	関連する施策															
関連する施策																
指標分析と課題	医療連携体制は、コロナ禍前の状況に戻りつつある。令和5年度から、整形外科の診療体制が更に充実し、中東遠医療圏内だけでなく、中部医療圏からの利用患者の増加や連携医療機関が拡大され、紹介・逆紹介率の増加に繋がった。 内科、整形外科、精神科の強みを活かし、更に医療連携体制の推進に取り組んでいく。															
評価分析	関連施策															
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△								
			成果1	成果2	判定評価	R9の方向性										
			コスト	成果	改善											
	1 医療機関、介護・福祉施設などとの連携を進めます		S	S	A	維持	維持	①								
	2 菊川市立総合病院の機能を充実します		S		A	維持	維持	①								
	3 家庭医養成プログラムを推進します		B		A	維持	維持	①								
	4 市民と行政が連携して地域医療支援の充実を目指します	健康づくり課	現未		A	維持	維持	①								

市民アンケート結果

総合評価

設問		1 「入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまち」だと思う市民の割合														
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)													
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度											
満足度	46.7%	62.0%	51.5%	50.0%	54.0%	そう思う(満足)										7.5%
						どちらかといえば思う										
						どちらかといえば思わない										
						そう思わない(不満)										
重要度			89.5%	86.9%	87.2%	重要										46.0%
						どちらかといえば重要										
						重要ではない										

満足度

重要度

設問																
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)													
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度											
満足度						そう思う(満足)										
						どちらかといえば思う										
						どちらかといえば思わない										
						そう思わない(不満)										
重要度						重要										
						どちらかといえば重要										
						重要ではない										

満足度

重要度

設問																
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)													
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度											
満足度						そう思う(満足)										
						どちらかといえば思う										
						どちらかといえば思わない										
						そう思わない(不満)										
重要度						重要										
						どちらかといえば重要										
						重要ではない										

満足度

重要度

設問																
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)													
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度											
満足度						そう思う(満足)										
						どちらかといえば思う										
						どちらかといえば思わない										
						そう思わない(不満)										
重要度						重要										
						どちらかといえば重要										
						重要ではない										

満足度

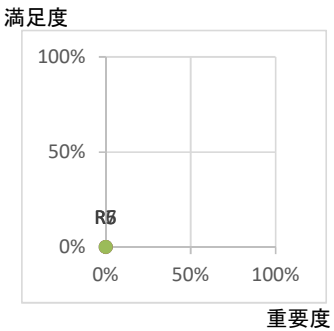
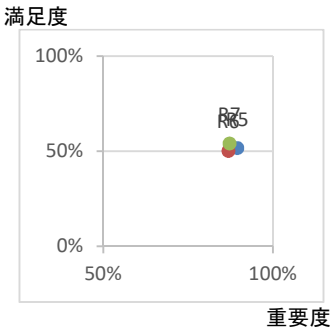
重要度

設問																
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)													
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度											
満足度						そう思う(満足)										
						どちらかといえば思う										
						どちらかといえば思わない										
						そう思わない(不満)										
重要度						重要										
						どちらかといえば重要										
						重要ではない										

満足度

重要度

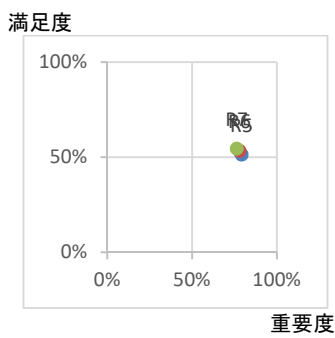
結果分析	満足度は、目標値には達成していないが、アンケート開始時から比較すると7.3%良くなっている。更に満足度を伸ばしていくためには、市民に、かかりたい病院、地域に必要な病院であると評価されるように、当院の強みをこれまで以上に、積極的に周知していく必要がある。																		
	総合判定評価		A 見直し・検討無し							R9年度の方向性		コスト	成果	改善					
											維持→	維持→	①	政策の進め方					
市民への持続的な医療提供体制の維持と、安定経営を行っていくため、菊川市立総合病院の強みである内科、整形外科、精神科を柱に、機能の充実を図っていく。そのためには、今後も浜松医科大学との連携による常勤医師の確保と家庭医の招聘に取り組むとともに、不足する診療機能については、近隣医療機関との連携強化を行っていく。																			



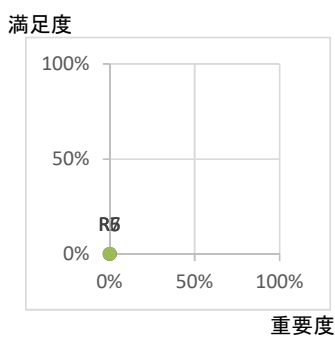
政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち														作成部署	
R7	政策	6 生涯にわたり学べるまちづくり														教育文化部	
		SDGsゴール	4	11	17												
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度							
	政策事業費(予算)	74,897	97,536	93,755	89,926	政策費増減額	△ 4,065	22,639	△ 3,781	△ 3,829							
						比較	95%	130%	96%	96%							
	政策事業費(決算)	74,300	97,126	93,192		一般財源増減額	△ 1,968	18,314	419	△ 10,615							
						比較	97%	125%	100%	89%							
	コスト分析と課題	令和6年度は、図書館システムの更新及び電子図書館システムの新規導入があったため事業費が大きく増となっていたが、令和7年度は当該事業費分は大きく減となった。一方で、職員の人件費や会計年度任用職員の報酬等は増加が続いているため、令和5年度の決算額との比較では増となっている。図書館の施設・設備は、経年劣化に伴い、修繕の必要な箇所が増えているため、大規模な修繕に至らないよう計画的に修繕、更新を行っていく必要がある。 また、物価高騰の影響は図書購入費にも及んでおり、限られた予算のなかで市民のニーズにあった図書の購入を進めていく必要がある。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	6 生涯にわたり学べるまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価						
			A	B	C			D	C/D								
		H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度									
	「生涯にわたり学習活動ができるまち」だと思 う市民の割合	%	51.6	62.0	51.3	53.2	54.4	62.0	87.7%	B	C						
	関連する施策																
	生涯学習講座の参加者数	人	515.0	600.0	259.0	263.0	339.0	600.0	56.5%	現未	E						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
関連する施策																	
指標分析と課題	「生涯にわたり学習活動ができるまち」だと思ふ市民の割合は、平成29年度以降、令和4年度及び5年度を除き上昇傾向にある。コロナ禍の影響による学習活動の縮小が影響したものと思われるが、各種学習機会の充実や、市の広報紙やSNSによる認知度の向上などが上昇につながったものと考える。 高齢化が進むなかで、学習の機会を求め、参加する意思を持つ市民の数は増えていくと考えられることから、幅広く参加の機会を提供していく必要がある。																
評価分析	関連施策																
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△									
			成果1	成果2	判定評価	R9の方向性											
			コスト	成果	改善												
	1 生涯学習活動を推進します	社会教育課	現未		B	維持	拡充	③									
	2 読書環境の整備に努めます	図書館	S		A	維持	維持	③									
	3 読書機会の提供・読書活動の啓発に努めます	図書館	現未		A	維持	維持	③									

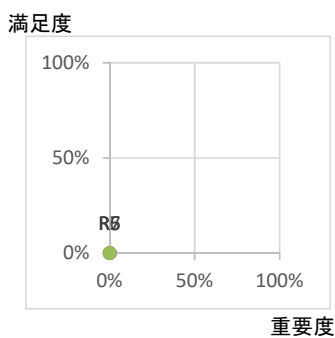
設問	1「生涯にわたり学習活動ができるまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	51.6%	62.0%	51.3%	53.2%	54.4%	そう思う(満足)	5.5%
						どちらかといえば思う	48.9%
			82.7%	85.8%	87.7%	どちらかといえば思わない	40.3%
						そう思わない(不満)	4.3%
重要度						重要	18.6%
			79.2%	78.1%	76.4%	どちらかといえば重要	57.8%
						重要ではない	22.5%



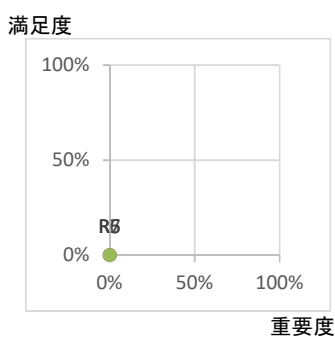
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

平成29年度以降、令和4年度及び5年度を除き上昇傾向にある。コロナ禍の影響による学習活動の縮小が影響したもののと思われるが、各種学習機会の充実や、市の広報紙やSNSによる認知度の向上などが上昇につながったものと考え
る。一方で重要度はここ2年低下傾向にある。物価高騰が続く社会状況から、生涯学習に対する関心が相対的に低下し
ているものと考え。

総合判定評価		B	軽微な見直し検討(一部施策)	R9年度の方向性	コスト 維持→	成果 拡充↑	改善 ①	政策の進め方
高齢化が進むなかで、様々な学習ニーズが求められてくると考えられる。幅広い世代の人たちが自主的に学習活動に取り組んでいけるよ う、多様な学習機会を提供するとともに、効果的に市民に周知することにより、生涯学習の推進を図っていく。								

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち														作成部署	
R7	政策	7 芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり														教育文化部	
		SDGsゴール	4	11													
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度							
	政策事業費(予算)	386,312	242,997	242,791	269,889	政策費増減額	12,198	△ 143,315	△ 206	27,098							
						比較	103%	63%	100%	111%							
	政策事業費(決算)	365,743	237,153	229,780		一般財源増減額	16,342	△ 18,584	11,063	△ 5,802							
						比較	110%	90%	107%	97%							
	コスト分析と課題	菊川文化会館アエルの設備更新工事費は前年度よりも大きく減となったものの、菊川城館遺跡群整備事業費及び応声教院山門保存修理補助金の金額が伸びたため、減少額は小幅なものとなった。文化会館アエルの施設・設備は、大ホール舞台吊物機構の改修等は計画的に進められているが、経年劣化による突発的に修繕が必要となるものが増加している状況にある。大規模な修繕に至らないよう、計画的に設備の維持補修、更新を実施し、市民に対し安定的に文化活動の発表、鑑賞機会が提供できる環境を適切に維持していく必要がある。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	7 芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価						
			A	B	C			D	C/D								
		H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度									
	「気軽に芸術文化にふれられるまち」だと思ふ市民の割合	%	39.1	54.0	41.0	41.4	42.0	54.0	77.8%	B	D						
	関連する施策																
	「歴史・文化遺産が継承され活かされているまち」だと思ふ市民の割合	%	40.8	56.0	48.2	49.6	48.9	56.0	87.3%	B	C						
	関連する施策																
	文化祭の来場者数	人	3,250.0	4,000.0	1,488.0	1,379.0	1,017.0	4,000.0	25.4%	現未	E						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
指標分析と課題	「気軽に芸術文化にふれらるまち」の割合は、令和4年度まで上昇傾向だったが、令和5年度にいったん下降し、再び上昇傾向に転じている。また、「歴史・文化遺産が継承され活かされているまち」の割合は、令和4年度まで上昇傾向が続いた後、上昇と下降が交互に生じている。文化会館アエルの主催事業や菊川歴史検定などの事業の実施が影響しているものとする。文化祭は、文化協会会員の高齢化等の影響により来場者数は減少傾向にある。文化活動団体等への支援とともに開催方法の見直しも視野に入れていく必要がある。																
評価分析	関連施策																
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△									
			成果1	成果2	判定評価	R9の方向性											
			コスト	成果	改善												
	1 鑑賞機会の提供に努めます	社会教育課	S		A	維持	拡充	①									
	2 市民の文化・芸術活動を支援します	社会教育課	現未		B	維持	拡充	①									
	3 文化財の保存・周知・活用を推進します	社会教育課	S		A	維持	拡充	①									

市民アンケート結果

総合評価

設問	1	「気軽に芸術文化にふれられるまち」だと思ふ市民の割合							
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	結果(満足度下段:達成率)						
			R5年度	R6年度	R7年度				
満足度	39.2%	54.0%	41.0%	41.4%	42.0%	そう思う(満足)		4.8%	
						どちらかといえば思う		37.2%	
			75.9%	76.7%	77.8%	どちらかといえば思わない		48.7%	
						そう思わない(不満)		8.2%	
重要度			66.3%	63.9%	61.4%	重要		12.8%	
						どちらかといえば重要		48.6%	
						重要ではない		37.5%	

満足度

重要度

設問	2	「歴史・文化遺産が継承され活かされているまち」だと思ふ市民の割合							
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	結果(満足度下段:達成率)						
			R5年度	R6年度	R7年度				
満足度	40.8%	56.0%	48.2%	49.6%	48.9%	そう思う(満足)		4.8%	
						どちらかといえば思う		44.1%	
			86.1%	88.6%	87.3%	どちらかといえば思わない		42.9%	
						そう思わない(不満)		6.9%	
重要度			68.7%	66.3%	63.7%	重要		13.4%	
						どちらかといえば重要		50.3%	
						重要ではない		35.0%	

満足度

重要度

設問									
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	結果(満足度下段:達成率)						
			R5年度	R6年度	R7年度				
満足度						そう思う(満足)			
						どちらかといえば思う			
						どちらかといえば思わない			
						そう思わない(不満)			
重要度						重要			
						どちらかといえば重要			
						重要ではない			

満足度

重要度

設問									
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	結果(満足度下段:達成率)						
			R5年度	R6年度	R7年度				
満足度						そう思う(満足)			
						どちらかといえば思う			
						どちらかといえば思わない			
						そう思わない(不満)			
重要度						重要			
						どちらかといえば重要			
						重要ではない			

満足度

重要度

結果分析	芸術文化や歴史・文化遺産などに関する満足度は長期的に見れば上昇傾向にある。各地区センターでの地域活動や指定管理者制度の下で興味を引く事業が行われている文化会館アエルの活動、市指定文化財の拡充などが影響しているものとする。一方で、重要度は物価高騰の影響が顕著となった令和5年度以降、低下傾向にある。生活に余裕の無さを感じる状況下であって、本分野に対する関心が相対的に低下しているものとする。										
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R9年度の方向性	コスト 維持→	成果 拡充↑	改善 ③	政策内容
--------	---	----------------	----------	------------	-----------	---------	------

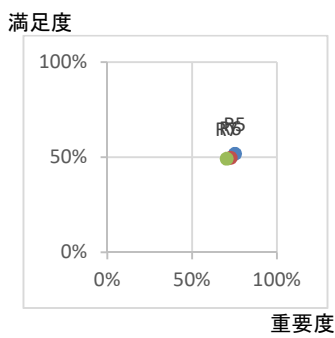
市民の文化・芸術活動を支援し、安定した文化・芸術鑑賞機会の提供していくため、文化会館アエルをはじめとした社会教育施設を安定して利用できるよう、整備計画に基づく設備更新などを適切に実施し、長寿命化を図っていく。
また、優れた歴史遺産・文化財を後世に伝えていくため、文化財の保存・活用や文化財の指定を進めるとともに、地域文化や地域資源の発信に努め、文化に触れる機会を提供していく。加えて、市文化協会と連携して中学校部活動の地域展開を進めていくことにより、芸術・文化活動に親しむ市民の増加を図っていく。

12

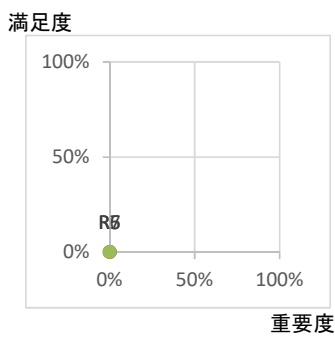
政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち														作成部署	
R7	政策	8 スポーツが盛んなまちづくり														教育文化部	
		SDGsゴール	3	11	17												
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度							
	政策事業費(予算)	192,989	166,585	477,497	256,793	政策費増減額	72,683	△ 26,404	310,912	△ 220,704							
						比較	160%	86%	287%	54%							
	政策事業費(決算)	151,412	158,414	475,681		一般財源増減額	7,114	1,056	1,433	△ 14,409							
						比較	108%	101%	102%	85%							
コスト分析と課題		前年度から事業費が大きく伸びた要因は、関連工事に着手した堀之内体育館改築工事費の金額が大きくなったことによるものである。このほかに和田公園多目的広場ナイター設備LED化工事の工事などを実施しており、堀之内体育館改築工事費以外の事業費は前年度とほぼ同規模である。令和9年5月に供用開始を予定している堀之内体育館改築工事を着実に進めるとともに、施設の適正な維持管理を行い、安心してスポーツのできる環境を整えていく必要がある。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	8 スポーツが盛んなまちづくり		単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価					
				A	B	C			D	C/D							
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度								
	「誰もが気軽にスポーツに取り組めるまち」だ と思う市民の割合		%	54.0	59.0	51.7	49.6	49.1	59.0	83.2%	現未	C					
	関連する施策																
	スポーツ施設年間利用者数		人	244,924.0	255,000以上	379,232.0	366,343.0	336,303.0	255,000.0	131.9%	S	S					
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
指標分析と課題		スポーツ施設の利用者数は、コロナ禍の時期に大きく落ち込んだが、それ以降増加傾向にある。しかし、ここ数年は施設の改修工事により利用停止期間が設けられていることや、利用団体の少人数化の影響もあり、減少傾向が続いている。市主催のスポーツ活動等はコロナ禍前の状態に戻っているが、少子高齢化や地域活動に対する意識の変化などにより、地域のスポーツ活動に変化が生じていることに加え、施設の利用制限が市民指標の変化に影響しているものとする。適切な機会提供ができるよう、教室等開催方法の工夫や施設の適切な維持を図る必要がある。															
評価分析	関連施策																
	施策名				担当課		指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△					
									判定評価	R9の方向性							
			成果1	成果2		コスト	成果	改善									
	1 誰もがスポーツに触れ合う機会を創出します				社会教育課		S		B	維持	拡充	③					
	2 スポーツ活動の場を提供します				社会教育課		S		A	拡充	拡充	①					
	3 スポーツ団体・スポーツ活動を支援します				社会教育課		現未		B	維持	拡充	①					

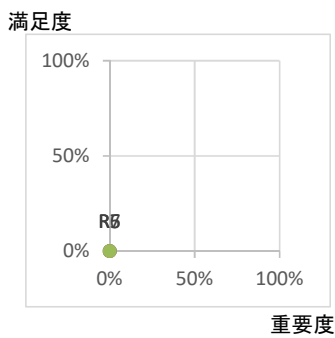
設問	1「誰もが気軽にスポーツに取り組めるまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	54.0%	59.0%	51.7%	49.6%	49.1%	そう思う(満足)	6.4%
						どちらかといえば思う	42.7%
			87.6%	84.1%	83.2%	どちらかといえば思わない	42.9%
						そう思わない(不満)	7.1%
重要度						重要	16.7%
			75.3%	72.7%	70.4%	どちらかといえば重要	53.7%
						重要ではない	28.5%



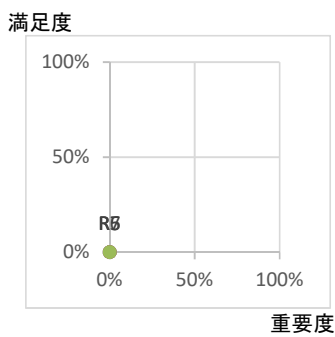
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

市主催のスポーツ活動等はコロナ禍前の状態に戻っているが、少子高齢化やコロナ禍後の地域活動の変化などにより、地域のスポーツ活動などに変化が生じてきていることに加え、改修工事の実施に伴う施設の利用制限などが満足度の低下に影響しているものと考ええる。また、重要度は物価高騰の影響が顕著となった令和5年度以降、低下傾向にある。生活に余裕の無さを感じる状況下において、スポーツに対する関心が相対的に低下しているものと考ええる。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討（一部施策）	R9年度の方向性	コスト	成果	改善	
				維持→	拡充↑	①	政策の進め方
少子高齢化やコロナ禍後の地域活動の変化などにより、スポーツへの関わり方が「気の合った仲間と気軽に楽しむ」というような傾向にあることが感じられる。そうした状況を踏まえつつ、年代に応じたスポーツ活動の充実を図るとともに、関係機関・団体との連携を強化し、障がいのある人が気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを進め、誰もがスポーツに触れ合う機会を提供していく。また、市民のスポーツ活動の場として、安全・安心に施設が利用できるような適正な維持・管理に取り組んでいく。加えて、各種スポーツ団体のと連携により競技者育成、中学校部活動の円滑な地域展開を進めていく。							

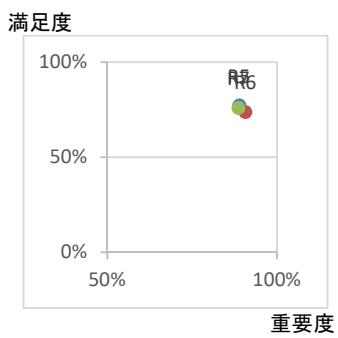
政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち													作成部署	
R7	政策	1 農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり													建設経済部	
		SDGsゴール	2	5	8	15										
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)									
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度						
	政策事業費(予算)	574,595	328,815	349,824	346,871	政策費増減額	△ 119,635	△ 245,780	21,009	△ 2,953						
						比較	83%	57%	106%	99%						
	政策事業費(決算)	555,369	320,413	334,656		一般財源増減額	△ 8,019	14,074	△ 23,472	△ 26,553						
						比較	96%	107%	89%	86%						
	コスト分析と課題	農業振興を図るための予算としては、地域特産物推進事業費補助金や水田高収益作物生産転作推進事業費補助金の活用者が増加しており、成果として表れている。市の施策は担い手確保のためにやる気のある農業者を後押しするものであり、引き続き補助金等の支援は必要である。 事業費の多くは土地改良事業の予算であるが、農地集積等には基盤整備が欠かせない。また、ため池の耐震補強工事により、市民生活の安心・安全を守るため必要な予算である。														
指標評価	総合計画										行政評価					
	1 農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価					
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度							
	「安全・安心で魅力ある農産物が生産されているまち」だと思う市民の割合	%	78.0	83.0	77.2	73.7	75.8	83.0	91.3%	現未	B					
	関連する施策															
	地域特産作物の開発数	件	0.0	4(累計)	4.0	4.0	4.0	4.0	100.0%	B	B					
	関連する施策															
	関連する施策															
	関連する施策															
	関連する施策															
指標分析と課題	経営基盤の強化を図るためにも高収益作物との複合経営を進めており、地域特産物については、レモン(プリン)・アヒージョ)イチジク(パンナコッタ)白ネギ(アヒージョ)を使った新メニューの開発を行った。引き続き次世代農業モデルを目指し、各種事業を進めていく。															
評価分析	関連施策															
	施策名	担当課		指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△							
			成果1	成果2	判定評価	R9の方向性 コスト	成果	改善								
	1 菊川型農業モデルの創出を図ります	農林課	B		A	維持	維持	①								
	2 経営感覚に優れた担い手の確保と育成を図ります	農林課	S		A	維持	拡充	①								
	3 農業経営基盤の強化を促進します	農林課	S		A	維持	維持	①								
	4 農地の適正な管理と利用を促進します	農林課	S		A	維持	維持	①								
	5 農業生産基盤の整備と維持管理を行います	農林課	B		A	維持	維持	①								

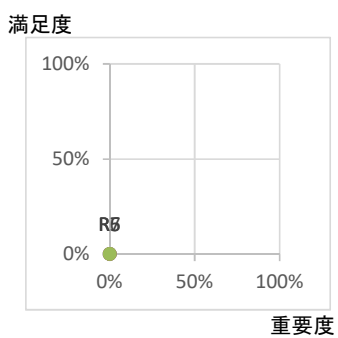
市民アンケート結果

総合評価

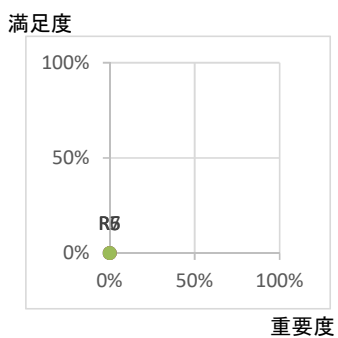
設問		1「安全・安心で魅力ある農産物が生産されているまち」だと思う市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	77.9%	83.0%	77.2%	73.7%	75.8%	そう思う(満足)	15.4%
						どちらかといえば思う	60.4%
			93.0%	88.8%	91.3%	どちらかといえば思わない	20.7%
						そう思わない(不満)	2.7%
重要度			88.9%	90.7%	88.7%	重要	34.5%
						どちらかといえば重要	54.2%
						重要ではない	10.0%



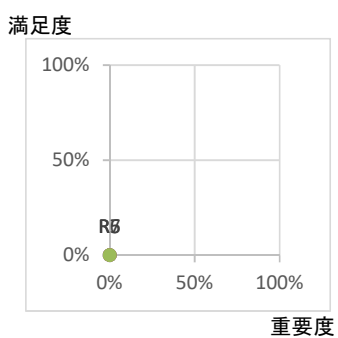
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

市民アンケート結果では、満足度において開始時以上、昨年度以下となった。市内には優れた農産物・生産者がたくさん存在するが、まだまだ市民へのPRが足りない。このため引き続き各種事業を推進するとともに情報発信にも力を入れていく。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R9年度の方向性	コスト	成果	改善	
				維持→	維持→	①	政策の進め方
高齢化による後継者不足等農業を取り巻く環境は年々厳しくなっている。「みどりの食糧システム戦略」を推進していくにあたり、引き続き、基盤の強化・担い手の確保・地域計画・農地集積・農業DX化・有機農業等の各種事業を実施していく。また、農業委員会等と連携し、農地解消も進めていく必要がある。							

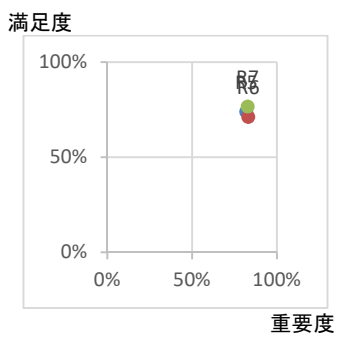
政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち														作成部署	
R7	政策	2 活力と魅力のある茶のまちづくり														建設経済部	
		SDGsゴール	2	8													
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度							
	政策事業費(予算)	24,030	37,131	135,450	33,285	政策費増減額	△ 6,892	13,101	98,319	△ 102,165							
						比較	78%	155%	365%	25%							
	政策事業費(決算)	22,834	28,027	36,643		一般財源増減額	△ 869	10,625	△ 4,976	1,056							
						比較	96%	149%	85%	104%							
	コスト分析と課題	菊川茶の生産基盤を維持していくためには、茶農家等への支援は大変重要である。支援の拡大も含め予算化していく必要がある。また、リーフ茶の需要を伸ばすためには消費拡大事業や茶文化の継承も重要であるため、引き続き現予算を確保する必要がある。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	2 活力と魅力のある茶のまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度								
	「茶の生産が盛んなまち」だと思ふ市民の割合	%	82.7	88.0	73.9	71.1	76.5	88.0	86.9%	現未	C						
	関連する施策																
	茶園管理組織経営体数	経営体	5.0	16(累計)	6.0	7.0	7.0	16.0	43.8%	C	D						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	指標分析と課題	茶単価の低迷や担い手不足により各茶農協の運営や自園自製農家もさらに厳しくなることが予想されるため、生産・販売を含めた法人化を進める必要があり、法人化した茶農協等の経営内容をさらに進化させ市内の茶農協等への波及が必要である。															
評価分析	関連施策																
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△									
			成果1	成果2	判定評価	R9の方向性											
			コスト	成果	改善												
	1 活力ある茶業の振興を推進します	茶業振興課	C		B	拡充	拡充	③	拡充化○								
	2 茶の消費拡大を図ります	茶業振興課	C		B	維持	拡充	③	拡充化○								
	3 茶文化を継承します	茶業振興課	B		A	維持	維持	③	拡充化○								

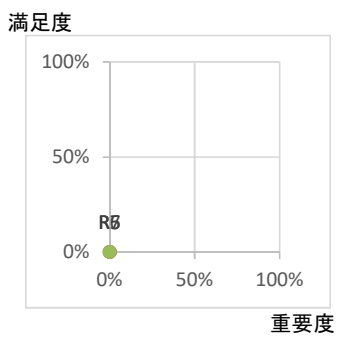
市民アンケート結果

総合評価

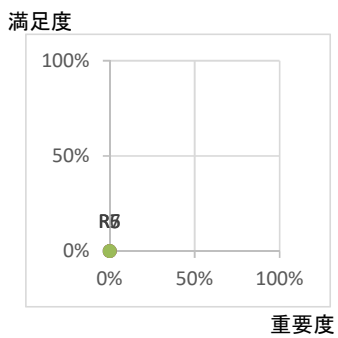
設問	1「茶の生産が盛んなまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	82.7%	88.0%	73.9%	71.1%	76.5%	そう思う(満足)	28.5%
						どちらかといえば思う	48.0%
			84.0%	80.8%	86.9%	どちらかといえば思わない	19.5%
						そう思わない(不満)	3.6%
重要度			82.0%	83.2%	82.8%	重要	34.9%
						どちらかといえば重要	47.9%
						重要ではない	16.4%



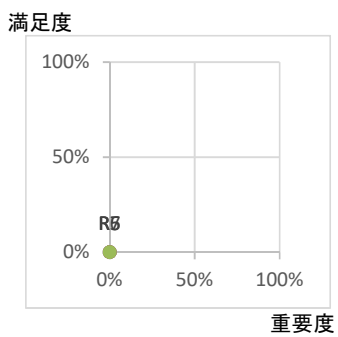
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

市民アンケート結果については、満足度において開始時以下、昨年度以下となった。茶業が厳しい現状に対して、市民も盛んではなくなっていると感じている結果である。「第2次菊川市茶業振興計画(菊川茶産地持続化計画)」に掲げた事業を確実に推進し、また、GI登録を契機として、茶経営体の強化とともに、消費拡大・販路拡大に向けさらにPRを行っていく必要がある。また、抹茶需要が好調なため国内向けや輸出用に碾茶の生産体制を整える必要がある。

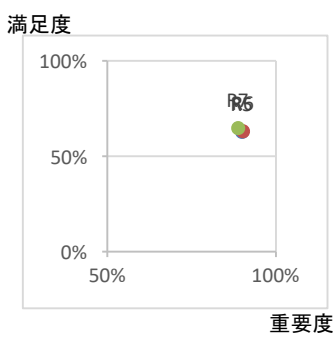
総合判定評価	A	見直し・検討無し	R9年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方

政策評価シート

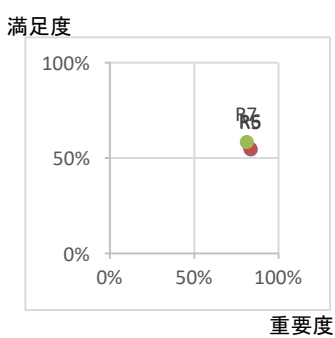
対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち													作成部署	
R7	政策	3 商工業が活気あるまちづくり													建設経済部	
		SDGsゴール	4	5	8	9	10									
コスト評価		事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)								
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度						
	政策事業費(予算)	612,933	525,381	639,968	1,151,171	政策費増減額	△ 289,068	△ 87,552	114,587	511,203						
						比較	68%	86%	122%	180%						
	政策事業費(決算)	585,493	505,620	632,728		一般財源増減額	△ 99,506	6,103	124,178	49,938						
						比較	39%	110%	278%	126%						
	コスト分析と課題	中小企業等の労働者福祉の増進、商工会が小規模事業者に行う経営改善普及事業等に対する補助、企業誘致に伴う助成など市内商工業者の操業を支援するためには必要な予算である。														
指標評価	総合計画										行政評価					
	3 商工業が活気あるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価					
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度							
	「買物がしやすいまち」だと思ふ市民の割合	%	60.9	71.0	62.8	63.0	64.7	71.0	91.1%	B	B					
	関連する施策															
	「企業(工業関係)に活力があるまち」だと思ふ市民の割合	%	41.5	57.0	54.4	54.9	58.3	57.0	102.3%	S	B					
	関連する施策															
	事業所数(二次産業・三次産業の計)	事業所	1,738.0	1,800.0	-	1,357 (R6基礎調査確定値)	-	1,800.0	-	-	-					
	関連する施策															
	関連する施策															
	関連する施策															
	関連する施策															
	指標分析と課題	「買い物しやすいまち」「企業(工業関係)に活力があるまち」の指標については、現状値から確実に上昇しており、これまでの取組の成果が表れている。引き続き商工会等関係団体との連携と産業支援センターによる起業支援や事業承継支援を進める必要がある。														
	評価分析	関連施策														
施策名		担当課	指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△								
			成果1	成果2	判定評価	R9の方向性										
1 就労機会の拡大を図ります		商工観光課	S		A	維持	維持	①								
2 がんばる商業者を応援します		商工観光課	現未		A	維持	維持	③								
3 市内企業の応援と進出企業の獲得に努めます		商工観光課	C		A	拡充	拡充	③								

市民アンケート結果

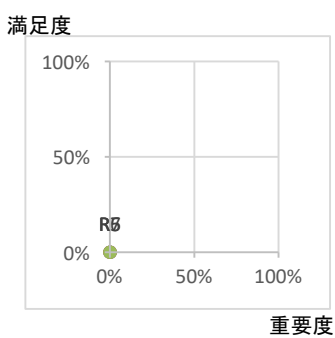
設問	1 「買物がしやすいまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	結果(満足度下段:達成率)				
			R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	60.9%	71.0%	62.8%	63.0%	64.7%	そう思う(満足)	18.9%
						どちらかといえば思う	45.8%
			88.5%	88.7%	91.1%	どちらかといえば思わない	27.9%
重要度			90.0%	90.2%	88.8%	そう思わない(不満)	7.2%
						重要	46.4%
						どちらかといえば重要	42.4%
						重要ではない	10.4%



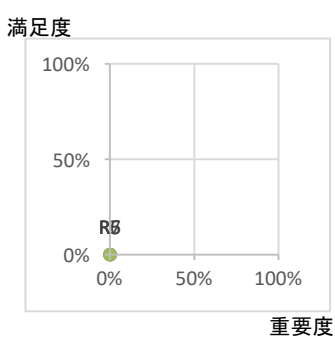
設問	2 「企業(工業関係)に活力があるまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	R5年度	R6年度	結果(満足度下段:達成率)		
			R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	41.5%		54.4%	54.9%	58.3%	そう思う(満足)	7.9%
						どちらかといえば思う	50.4%
						どちらかといえば思わない	34.2%
重要度			83.5%	83.4%	81.1%	そう思わない(不満)	5.9%
						重要	27.0%
						どちらかといえば重要	54.1%
						重要ではない	17.8%



設問							
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	R5年度	R6年度	結果(満足度下段:達成率)		
			R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	R5年度	R6年度	結果(満足度下段:達成率)		
			R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

設問1から設問2は開始時以上、昨年度以上となった。民間開発等による商業施設や商店、住宅地の開発により利便性が向上していると考えられるが、現在進めている工場用地の造成計画や駅北開発の計画により、さらに満足度を高めていく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R9年度の方向性	コスト	成果	改善	
				維持→	維持→	③	政策内容
改としても商工会等との連携や企業誘致を進めていく必要があるため、半済産業用地の公募による売却を進推する。また、人口減少の のためにも駅北開発や民間開発の適正な土地利用を図る必要がある。							

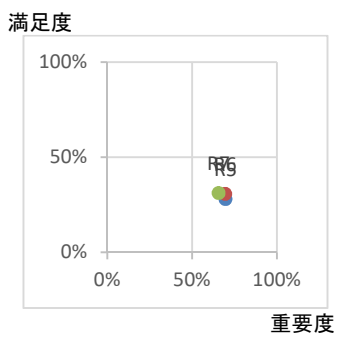
政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち														作成部署	
R7	政策	4 人が訪れるまちづくり														建設経済部	
		SDGsゴール	8	11	17												
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度							
	政策事業費(予算)	73,379	67,922	151,735	55,878	政策費増減額	7,845	△ 5,457	83,813	△ 95,857							
						比較	112%	93%	223%	37%							
	政策事業費(決算)	69,242	64,189	149,993		一般財源増減額	△ 464	11,742	△ 3,537	△ 7,767							
						比較	99%	124%	94%	86%							
	コスト分析と課題	本市の認知度向上、交流人口の拡大を推進する予算であり、さらに定住人口の増加や流出抑制を図るためには必要な予算である。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	4 人が訪れるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度								
	「観光や地域間交流など人の交流が盛んなまち」だと思う市民の割合	%	20.7	41.0	28.0	30.6	31.2	41.0	76.1%	B	D						
	関連する施策																
	観光交流客数	人	364,388.0	400,000.0	337,544.0	361,700.0	392,309.0	400,000.0	98.1%	B	B						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	指標分析と課題	イベントについてはコロナの影響が無くなり概ね全て開催されたことで観光交流客数は増加している。また、観光や地域間交流など人の交流が盛んなまちだと思う市民の割合も上昇している。今後はイベント等の開催方法や内容を充実させていく必要がある。															
評価分析	関連施策																
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△									
			成果 1	成果 2	判定 評価	R9の方向性 コスト 成果 改善											
	1 市民力による魅力発信を支援します	商工観光課	B		A	拡充	拡充	③									
	2 マスコットを活用した情報発信を行います	商工観光課	現未		A	維持	維持	③									
	3 広域市町と連携した交流人口の増加を図ります	商工観光課	現未		A	維持	維持	③									

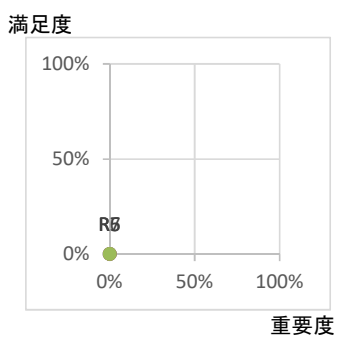
市民アンケート結果

総合評価

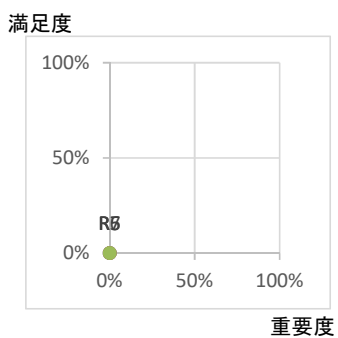
設問	1「観光や地域間交流など人の交流が盛んなまち」だと思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	20.7%	41.0%	28.0%	30.6%	31.2%	そう思う(満足)	2.6%
						どちらかといえば思う	28.6%
			68.3%	74.6%	76.1%	どちらかといえば思わない	54.1%
						そう思わない(不満)	13.5%
重要度			69.8%	69.6%	65.6%	重要	16.3%
						どちらかといえば重要	49.3%
						重要ではない	32.9%



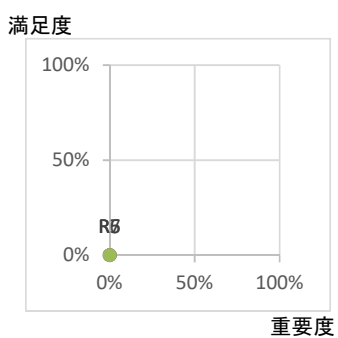
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 市民アンケート結果については、満足度において開始時以上、昨年度以上となった。各種イベントの内容を充実させることが重要である。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R9年度の方向性	コスト 維持→	成果 維持→	改善 ③	政策内容
コロナ禍の影響により様々なイベント等が中止、縮小が複数年続いたことで開催方法や開催内容を変更している。商工会や観光協会等の関係団体と話し合いを行い各種イベントの開催方法及び内容を検討し、交流人口を増やしていく必要がある。							

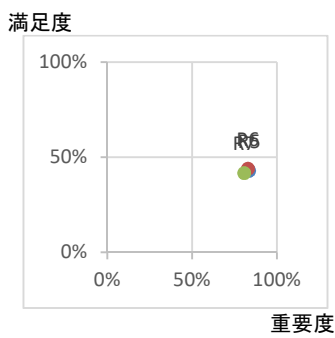
政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち													作成部署	
R7	政策	5 消費者が安心して暮らせるまちづくり													建設経済部	
		SDGsゴール	16													
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)									
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度						
	政策事業費(予算)	2,909	3,406	4,177	4,201	政策費増減額	140	497	771	24						
						比較	105%	117%	123%	101%						
	政策事業費(決算)	2,849	3,363	4,115		一般財源増減額	82	204	2,263	279						
						比較	106%	115%	245%	107%						
	コスト分析と課題	消費者被害を未然に防ぐための関係機関との連携強化、消費者トラブルの早期解決を図るためには必要な予算である。														
指標評価	総合計画										行政評価					
	5 消費者が安心して暮らせるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価					
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度							
	「消費者が悪質商法の被害に遭わない消費者保護の取り組みがされているまち」だと思う	%	45.3	60.0	42.8	43.9	41.6	60.0	69.3%	現未	E					
	関連する施策															
	消費生活センター相談件数	件	197.0	100.0	231.0	233.0	244.0	100.0	41.0%	現未	D					
	関連する施策															
	関連する施策															
	関連する施策															
関連する施策																
関連する施策																
指標分析と課題	消費生活センター相談件数は微増したが、センターが機能している側面もある。引き続き、被害防止のための啓発活動と消費生活センターの周知を図り、消費者相談を受けていく。															
評価分析	関連施策															
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△								
			成果 1	成果 2	判定 評価	R9の方向性										
			コスト	成果	改善											
	1 消費者被害の軽減に努めます	商工観光課	現未		A	維持	維持	③								
	2 消費生活センターの機能を強化し、消費者の保護に努めます	商工観光課	現未		A	維持	維持	③								

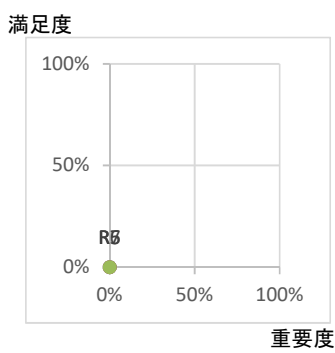
市民アンケート結果

総合評価

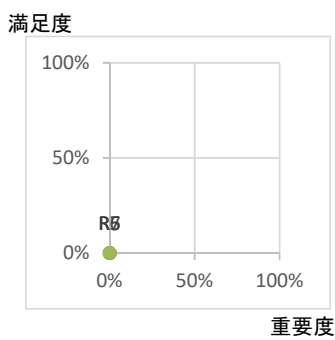
設問	1		「消費者が悪質商法の被害に遭わない消費者保護の取り組みがされているまち」だと思う				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	45.3%	60.0%	42.8%	43.9%	41.6%	そう思う(満足)	4.3%
						どちらかといえば思う	37.3%
			71.3%	73.2%	69.3%	どちらかといえば思わない	48.5%
						そう思わない(不満)	8.3%
重要度			83.7%	83.0%	80.7%	重要	31.8%
						どちらかといえば重要	48.9%
						重要ではない	17.8%



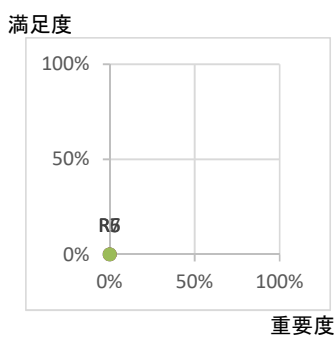
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度					そう思う(満足)		
					どちらかといえば思う		
					どちらかといえば思わない		
					そう思わない(不満)		
重要度					重要		
					どちらかといえば重要		
					重要ではない		



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度					そう思う(満足)		
					どちらかといえば思う		
					どちらかといえば思わない		
					そう思わない(不満)		
重要度					重要		
					どちらかといえば重要		
					重要ではない		



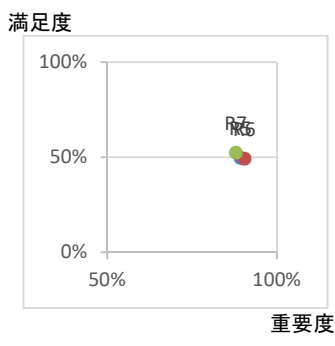
結果分析	市民アンケート結果については、満足度において開始時以下、昨年度以上となった。引き続き関係団体等の協力を得て、啓発活動を行い未然防止を行っていく必要がある。														
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R9年度の方向性	コスト	成果	改善	
				維持→	維持→	③	政策内容
悪徳商法や特殊詐欺が年々巧妙化している。特に行政職員や銀行員等と名乗り信用させお金をだまし取る手口が増加している。また、受け子が直接金銭等を受け取りに来る例もあることから引き続き啓発活動を行うとともに、消費生活センターへの相談を周知していく。							

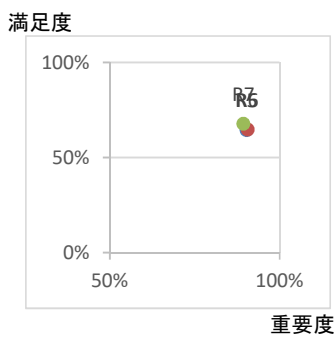
政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち														作成部署	
R7	政策	1 防災力を高めるまちづくり														危機管理部	
		SDGsゴール	11	13	17												
コスト評価		事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)									
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度							
	政策事業費(予算)	410,095	707,005	1,319,898	455,016	政策費増減額	70,225	296,910	612,893	△ 864,882							
						比較	121%	172%	187%	34%							
	政策事業費(決算)	379,571	648,162	1,240,117		一般財源増減額	29,324	△ 54,667	△ 8,547	△ 12,005							
						比較	121%	67%	92%	89%							
	コスト分析と課題	「防災力を高めるまちづくり」には、災害復旧事業費も含まれており災害発生状況により事業費の増減がある。 菊川市防災対策強靱化事業に着手したことにより、防災に係るコストは増加しているが、毎年のように発生する豪雨や予想される大規模地震から市民の皆さまの生命と財産を守るため、防災対策の強靱化を図っていく。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	1 防災力を高めるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度								
	「災害に備え防災対策が整っているまち」だ と思う市民の割合	%	50.4	60.0	49.6	49.1	52.4	60.0	87.3%	B	C						
	関連する施策																
	「地域が防災・防火活動に取り組んでいるま ち」だと思う市民の割合	%	68.1	78.0	64.4	64.6	67.7	78.0	86.8%	現未	C						
	関連する施策																
	住宅の耐震化率	%	84.2	95.0	94.9	95.6	95.9	95.0	100.9%	S	B						
	関連する施策																
	地域防災訓練(12月)への参加者数	人	14,318.0	15,750.0	12,085.0	12,089.0	13,358.0	15,750.0	84.8%	現未	C						
	関連する施策																
	関連する施策																
関連する施策																	
指標分析と課題	訓練参加者は、本年度は昨年度と比べ微増となっているが、コロナ禍前の状況には戻っていない。訓練参加者をど のように増やしていくかが課題であり、防災力の強化を図るためには、「共助」による地域での防災活動が重要であ る。このため地域防災訓練においては、過去の災害を教訓に「自助」による日頃の備え、地域での「共助」による助け 合いを市民に理解いただき、継続して実施する訓練に加え、一人でも多くの市民が参加できるよう訓練内容など見直 していく必要がある。																
評価分析	関連施策																
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△									
			成果 1	成果 2	判定 評価	R9の方向性											
			コスト	成果	改善												
	1 災害に強いまちをつくります	都市計画課	S		A	拡充	拡充	①									
	2 自主防災組織の体制及び連携強化を図ります	危機管理課	S		A	維持	維持	①									
	3 市民の防災意識の高揚を図ります		S		B	維持	維持	①									
	4 市民の防災活動への参加を推進します	危機管理課	現未		A	拡充	拡充	①									
5 避難情報の適切な伝達と避難体制の強化を図ります	危機管理課	S		A	縮小	維持	①										

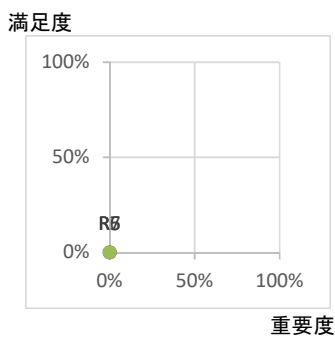
設問	1	「災害に備え防災対策が整っているまち」だと思う市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	50.4%	60.0%	49.6%	49.1%	52.4%	そう思う(満足)	5.8%
						どちらかといえば思う	46.6%
						どちらかといえば思わない	39.0%
						そう思わない(不満)	7.7%
重要度			89.3%	90.5%	87.9%	重要	50.1%
						どちらかといえば重要	37.8%
						重要ではない	11.0%



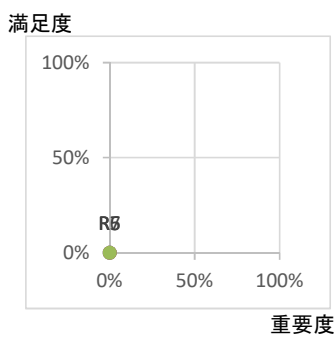
設問	2	「地域が防災・防火活動に取り組んでいるまち」だと思う市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	68.1%	78.0%	64.4%	64.6%	67.7%	そう思う(満足)	12.0%
						どちらかといえば思う	55.7%
						どちらかといえば思わない	27.8%
						そう思わない(不満)	3.9%
重要度			90.3%	90.6%	89.4%	重要	44.4%
						どちらかといえば重要	45.0%
						重要ではない	9.5%



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析	「災害に備え防災対策が整っているまち」だと思う市民の割合が増加しているが、本庁舎の外壁改修工事及び黒沢川流域の治水対策などの防災対策強靱化事業が進んできたことが評価されたと推察する。また、「地域が防災・防火活動に取り組んでいるまち」の満足度が増加しているが、コロナ禍で一時縮小した地域における防災活動が近年になり活発化してきたことにより、市民の皆さまが防災訓練等へ参加し、地域ぐるみで防災について学び・考える機会が増えてきていることが要因と考えられる。					
------	--	--	--	--	--	--

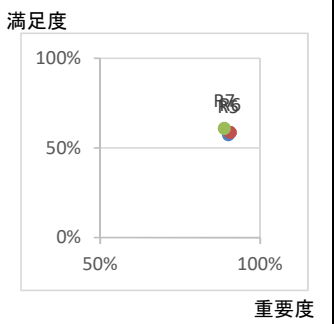
総合判定評価	A	見直し・検討無し	R9年度の方向性	コスト	成果	改善	
				維持→	拡充↑	①	政策の進め方
防災力を高めるまちづくり」に関しては、まず、市民の皆さまが日頃から、自らとその家族の命を守ることの大切さと重要さを意識し、災害備えに取り組んでいく「自助」の必要性について、継続して伝えていく必要がある。 、ひとりひとりが地域との繋がりをもち、自主防災会などの組織の運営をもって地域が一体となり防災に取り組み支え合う、「共助」の繋がりが防災活動においても重要と考える。 政の担う「公助」では、災害時に必要かつ重要である情報伝達手段の確保を含む、災害に備えるための基盤整備と防災資機材の整備めるとに加え、自助を強化するために必要な「日頃の備え」に関する知識と情報の周知と啓発を行うこと更に、地域と取り組む防災訓練においては、多くの住民の参加を促し訓練を実施し、反省と検討を繰り返すことで、防災力の向上を図っていく。							

総合評価

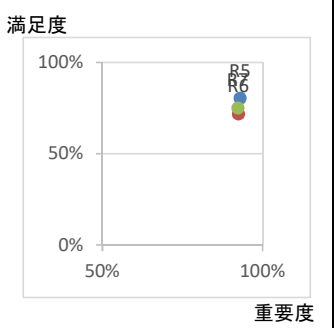
政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち														作成部署	
R7	政策	2 交通事故・犯罪のないまちづくり														総務部	
		SDGsゴール	3	13	16												
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度							
	政策事業費(予算)	122,931	184,306	133,457	144,465	政策費増減額	29,996	61,375	△ 50,849	11,008							
						比較	132%	150%	72%	108%							
	政策事業費(決算)	119,702	182,083	111,773		一般財源増減額	2,810	6,557	△ 4,248	7,954							
						比較	103%	107%	96%	109%							
	コスト分析と課題	第2次菊川市総合計画の基本目標4「快適な環境で安心して暮らせるまち」の実現に向け、交通事故や犯罪のないまちづくりに取り組んだ。 コストは、交通安全対策に係る各会議や団体の運営、交通安全施設の整備・維持管理、防犯灯の整備など、交通事故・犯罪のないまちづくりを推進する上で必要なコストは年々上昇している。特に安全施設の整備・維持管理といったインフラメンテナンスの予算は今後も増加が見込まれるが、引き続き必要な予算の確保と適正な予算執行に努めていく。 また、通学路の合同点検による危険箇所の対策工事(ハード)や菊川警察署、交通指導隊、防犯協会等、関係機関との連携(ソフト)を強化しながら、より安全で安心なまちづくりを進めている。															
	総合計画																行政評価
	2 交通事故・犯罪のないまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度								
「交通事故の危険が少ないまち」だと思ふ市民の割合	%	55.9	66.0	57.3	58.6	60.9	66.0	92.3%	B	B							
関連する施策																	
「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」だと思ふ市民の割合	%	71.6	82.0	80.3	71.7	75.0	82.0	91.5%	B	B							
関連する施策																	
交通事故年間発生件数	件	314.0	300.0	191.0	139.0	130.0	300.0	230.8%	S	S							
関連する施策																	
刑法犯罪認知件数	件	234.0	200.0	137.0	143.0	172.0	200.0	116.3%	S	A							
関連する施策																	
関連する施策																	
関連する施策																	
指標分析と課題	「交通事故の危険が少ないまち」は、H27の現状値からプラス5.1ポイントとなり、交通事故減少に向けたハード・ソフト両面からの事業推進をした結果である。「交通事故年間発生件数」は目標値をは大きく下回っており、特に交通死亡事故ゼロ連続日数1,200日を達成した。(達成日R8.3.19)引き続き交通事故の減少に向け、ハード・ソフト両面からのアプローチが必要である。 「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」は、H27の現状値からプラス3.4ポイントとなり、青色回転灯装着車によるパトロールや市公式SNS等を活用した注意喚起など警察や防犯協会等と連携して事業を実施した結果である。「刑法犯罪認知件数」は、H27の現状値から大きく下回り目標を達成しているものの、近年は増加傾向である。今後も警察等の関係機関と連携するなか、犯罪の抑止に努める必要がある。																
評価分析	関連施策																
	施策名				担当課				指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△			
											判定評価	R9の方向性					
									成果1	成果2		コスト	成果	改善			
	1 交通事故を減らすため交通安全活動を推進します				地域支援課				現未		A	維持	維持	①			
	2 交通安全施設の整備を進めます				建設課				C		A	拡充	拡充	①	拡充化○		
	3 犯罪のない明るい地域社会づくりを推進します				地域支援課				S		A	維持	維持	①			

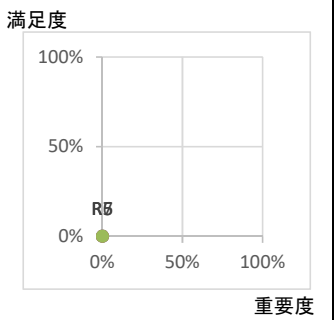
設問		1		「交通事故の危険が少ないまち」だと思う市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度			
満足度	55.9%	66.0%	57.3%	58.6%	60.9%	そう思う(満足)	10.6%	
						どちらかといえば思う	50.3%	
			86.8%	88.8%	92.3%	どちらかといえば思わない	30.7%	
						そう思わない(不満)	8.0%	
重要度			90.1%	90.7%	88.8%	重要	51.0%	
						どちらかといえば重要	37.8%	
						重要ではない	10.4%	



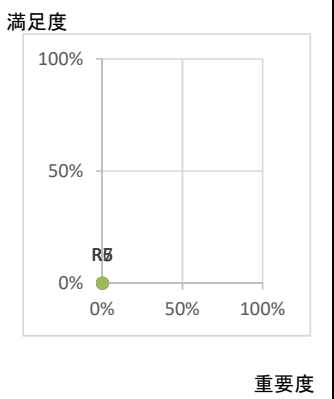
設問		2		「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」だと思ふ市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度			
満足度	71.6%	82.0%	80.3%	71.7%	75.0%	そう思う(満足)	16.0%	
						どちらかといえば思う	59.0%	
			97.9%	87.4%	91.5%	どちらかといえば思わない	21.0%	
						そう思わない(不満)	3.2%	
重要度			93.0%	92.5%	92.3%	重要	56.6%	
						どちらかといえば重要	35.7%	
						重要ではない	6.5%	



設問								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



設問								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



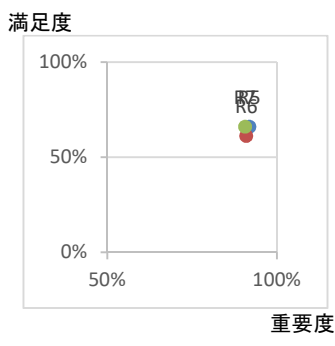
結果分析	「交通事故の危険が少ないまち」だと思ふ市民の割合は、交通事故発生件数が減少しているため満足度については年々増加傾向にあるが、一方で市内で重大事故(死亡・ひき逃げ)が発生した後は満足度が大幅に落ち込む傾向にある。 「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」だと思ふ市民の割合は、市内で犯罪認知件数が少ないため満足度も高い傾向にあるが、一方で市内で重大事件(殺人)が発生した後は満足度が大幅に落ち込む傾向にある。 今後も引き続き、自治会や警察、交通安全協会等、関係機関の皆様と連携し、1件でも交通事故や刑法犯罪の発生を抑制するため、不断の取り組みが求められる。																
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

総合判定評価	C	見直し検討(複数施策)	R9年度の方向性	コスト	成果	改善	
				拡充↑	拡充↑	③	政策内容
3次総合計画・魅力目標4・快適・政策1「交通安全・防犯の意識が高いまちづくり」を推進するうえで、交通安全の啓発、安全施設の整備、防犯に関する関係組織の連携は不可欠な要素であり、不断の取り組みが求められる。 交通安全については、交通指導隊による街頭指導や広報活動、自転車の乗り方教室等を通じ交通事故防止に欠かせない活動を継続していく。また、転落防止柵、反射鏡、区画線などの安全施設の整備を優先順位の高い場所から対応していく。引き続き学校・地域・警察等と連携し、必要な安全対策を講じていく。また、交通死亡事故ゼロ連続日数を継続できるよう、関係機関と協力していく。 防犯については、毎年自治会からの多くのご要望をいただく防犯灯の設置に関し、省エネルギー化・電気料の軽減に資する「既存の防犯灯のLED化」に取り組む。また、振り込め詐欺など、高齢者を狙った特殊詐欺もより巧妙化しており、さらに自動車窃盗が相次いでいるなど一層の注意喚起に努めていく。 交通事故や刑法犯罪はいつ起こるかわからないため、ハード・ソフト両面の取り組みにより、事件・事故の発生を抑え、関係機関と連携し取り組みを進めていく。							

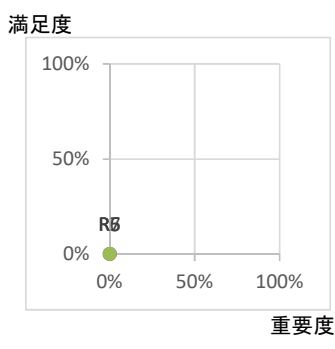
政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち														作成部署	
R7	政策	3 消防力を高めるまちづくり														消防本部	
		SDGsゴール	11	13	17												
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度							
	政策事業費(予算)	191,977	399,822	333,027	218,110	政策費増減額	12,857	207,845	△ 66,795	△ 114,917							
						比較	107%	208%	83%	65%							
	政策事業費(決算)	168,198	386,294	296,787		一般財源増減額	25,918	△ 6,585	12,655	△ 11,088							
						比較	129%	94%	112%	91%							
	コスト分析と課題	緊急防災・減災事業債及び県の補助金等を有効活用し、令和6年度から繰越されていた化学消防ポンプ自動車、消防団嶺田蔵置所の建て替え、耐震性防火水槽2基の整備を行ったが、消防団車両の更新は部品不足等により翌年度繰越となった。 特殊車両である消防車両や耐震性防火水槽等の整備には高額な費用が掛かるが、あらゆる災害に迅速・的確に対応するためには必要不可欠なものであるため、資機材の耐久性や機能性も含めた仕様について、十分検討したうえで計画的に整備していく必要がある。また、車両や資機材の部品調達が困難な状況等による整備の遅れを避けるため、社会情勢を考慮した予算計画や予算執行を行っていく必要があるとともに、限られた一般財源を有効に活用できるよう、国・県補助金や有利な地方債等の財源を活用していく。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	3 消防力を高めるまちづくり		単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価					
				A	B	C			D	C/D							
				H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度							
	「防災・救急体制が整備されたまち」だと思 う市民の割合		%	59.5	70.0	65.9	61.1	66.0	70.0	94.3%	B	B					
	関連する施策																
	消防団員の定数に対する充足率		%	87.6	95.0	73.9	75.5	69.2	95.0	72.8%	現未	E					
	関連する施策																
	関連する施策																
関連する施策																	
関連する施策																	
指標分析と課題		少子高齢化による救急需要の変化はもとより、自然現象や社会環境の変化に伴って発生する様々な災害リスクに対し現場活動の強化のための資機材整備や訓練による職員の技術・知識の更なる向上に向け、業務を継続していく必要がある。 消防団員については、全国的に減少傾向にあり、少子高齢化、産業構造やライフスタイルの変化等が進むなかで、地域や企業、消防団員対象世代やその家族などに対し理解と協力を求めるとともに、積極的に勧誘活動を行っていく必要がある。また、消防団員確保のため消防団員の活動環境や消防団組織を見直し、広報の充実及び官民一体となった処遇改善の実現に向け、検討を進めていく必要がある。															
評価分析	関連施策																
	施策名				担当課				指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△			
											R9の方向性						
									判定 評価	コス ト	成果	改善					
	1 消防施設・設備・体制の充実強化を図ります								B		A	拡充	維持	①	拡充化○		
	2 消防技術の向上を目指します								B		A	維持	維持	①			
	3 消防団の防災力の維持・向上を図ります								現未		A	維持	維持	①			

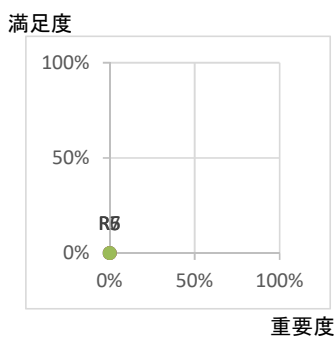
設問	1		「防災・救急体制が整備されたまち」だと思ふ市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	59.5%	70.0%	65.9%	61.1%	66.0%	そう思う(満足)	8.9%
						どちらかといえば思う	57.1%
			94.1%	87.3%	94.3%	どちらかといえば思わない	28.1%
						そう思わない(不満)	4.9%
重要度			91.9%	91.0%	90.6%	重要	49.9%
						どちらかといえば重要	40.7%
						重要ではない	7.9%



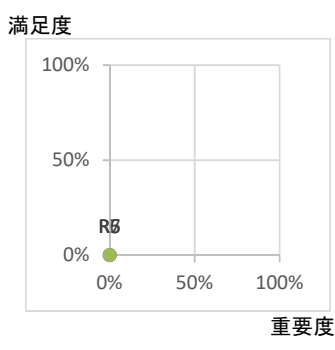
設問							
区 分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満 足 度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重 要 度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

過去9年間の結果を踏まえると、満足度は増加と減少を繰り返しているものの、総合的には6.5ポイント増加した。コロナ禍などの社会環境の変化や熱海市土石流災害、能登半島地震など大規模な自然災害が発生するなど、不安を抱える市民が防災・救急に対し関心が高まる状況下において、救命講習の受講できる年齢層を拡充したことや市民がより手軽に相談できる救急安心電話相談窓口＃7119の広報、また、大規模災害を想定した訓練を関係機関と合同で行うなど、市民が防災・救急体制を身近に感じられる環境を整えたことが増加した要因と捉える。

しかし、重要度に関しては年々減少しており、防災・救急体制の整備が当たり前という意識の常態化が予想される。消防としては複雑多様化する災害への対応力を向上させるとともに、防災・救急体制の重要性について広報活動を行っていく必要がある。

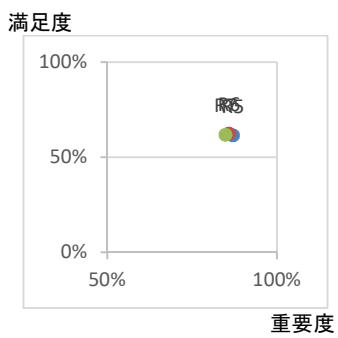
総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R9年度の方向性	コスト 拡充↑	成果 維持→	改善 ① 政策の進め方
消防施設の維持管理、緊急車両や資機材の更新整備に加え、各種訓練や研修、派遣教育等による職員の資質向上や消防指令センターの共同運用により消防力の強化を図り、常に万全な体制を保つことが重要である。また、地域防災の要として必要不可欠である消防団の活動環境の整備等について引き続き検討するとともに、消防団活動の広報を積極的に実施し、地域や企業に対して理解や協力を求めることで団員確保に繋げ、地域防災力の強化を図っていかなければならない。						

政策評価シート

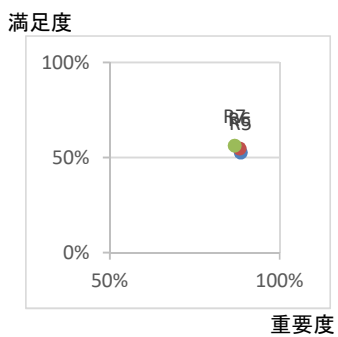
対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち														作成部署			
R7	政策	4 豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり														生活環境部			
		SDGsゴール	3	6	7	8	11	12	13	14	15	17							
コスト評価		事業費と割合(千円)								予算額比較(千円)									
		R5年度		R6年度		R7年度		R8年度			R5年度		R6年度		R7年度		R8年度		
	政策事業費(予算)	1,120,366		1,191,005		1,231,174		1,314,564		政策費増減額	△ 10,966		70,639		40,169		83,390		
									比較	99%		106%		103%		107%			
	政策事業費(決算)	1,105,762		1,187,055		1,228,101				一般財源増減額	△ 26,148		72,285		39,281		102,773		
									比較	98%		107%		103%		109%			
	コスト分析と課題	新廃棄物処理施設の整備にかかる衛生施設組合への負担金の増加が見込まれるなど、循環型社会・脱炭素社会の構築を図る上で、環境施策へのコスト増が見込まれている。 環境施策について、市民等の脱炭素に向けた設備投資等への負担軽減策を講じるなど、2050年カーボンニュートラルを実現するための取組が必要である。																	
指標評価	総合計画																	行政評価	
	4 豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり		単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価							
				A	B	C			D	C/D									
				H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度									
	「市民や企業が環境保全に取り組むまち」だと思ふ市民の割合		%	56.8	67.0	61.4	62.4	61.7	67.0	92.1%	B	B							
	関連する施策																		
	「水質が保全され川がきれいなまち」だと思ふ市民の割合		%	44.7	60.0	52.6	54.7	56.2	60.0	93.7%	B	B							
	関連する施策																		
	水質環境基準の達成状況(BOD値)菊川：高田橋(2.0mg/ℓ以内)		mg/ℓ	1.2	2.0	1.4	1.2	1.8	2.0	111.1%	S	A							
	関連する施策																		
	水質環境基準の達成状況(BOD値)牛蒌川：堂山橋(3.0mg/ℓ以内)		mg/ℓ	2.3	3.0	2.3	2.2	2.6	3.0	115.4%	S	A							
	関連する施策																		
	関連する施策																		
関連する施策																			
関連する施策																			
指標分析と課題		「市民や企業が環境保全に取り組むまち」だと思ふ市民の割合及び「水質が保全され川がきれいなまち」だと思ふ市民の割合は、平成27年度の現状値と比べ、令和7年度の目標値には達しなかったもののどちらも実績値は上がっている。これは、全世界的な環境保全・水質保全に関する市民の意識の高まりや、水質環境基準が目標値を上回ったことから、公共下水道や合併処理浄化槽の普及に対する理解が促進されたことによるものと思われる。 今後、2050年カーボンニュートラルに向け、環境政策の重要度が高まっており、脱炭素社会を実現するために、再生可能エネルギーの普及促進や、製品プラスチック等の更なるリサイクルの推進を計画的に進める必要がある。																	
評価分析	関連施策																		
	施策名				担当課				指標評価		総合判定評価					R9年度 拡充化○ 縮減化△			
											判定 評価	R9の方向性							
	成果 1	成果 2		コスト	成果	改善													
	1 地球温暖化対策・自然環境の保全を推進します				環境推進課				B		A	拡充	拡充	①	拡充化○				
	2 水質浄化・生活環境の改善を進めます				下水道課				S		A	維持	維持	①					
	3 循環型社会の推進を図ります				環境推進課				現未		A	維持	拡充	③	拡充化○				
4 適正な汚水処理施設の管理・運営を進めます				下水道課				B		A	維持	維持	①						

市民アンケート結果

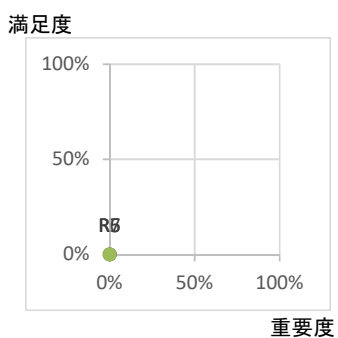
設問	1		「市民や企業が環境保全に取り組むまち」だと思ふ市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	56.8%	67.0%	61.4%	62.4%	61.7%	そう思う(満足)	6.0%
						どちらかといえば思う	55.7%
			91.6%	93.1%	92.1%	どちらかといえば思わない	32.8%
						そう思わない(不満)	3.7%
重要度			87.1%	85.9%	84.9%	重要	27.0%
						どちらかといえば重要	57.9%
						重要ではない	13.2%



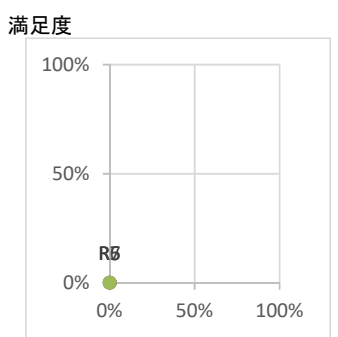
設問	2		「水質が保全され川がきれいなまち」だと思ふ市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	44.7%	60.0%	52.6%	54.7%	56.2%	そう思う(満足)	9.4%
						どちらかといえば思う	46.8%
			87.7%	91.2%	93.7%	どちらかといえば思わない	35.1%
						そう思わない(不満)	7.7%
重要度			88.6%	88.3%	86.8%	重要	38.3%
						どちらかといえば重要	48.5%
						重要ではない	11.6%



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析	満足度は、平成27年度開始時に比べそれぞれ上昇しているが、目標値には達しなかった。重要度は80%台で推移している。地球温暖化防止に対する全世界的な取り組みが進む中、本市でも環境保全・水質保全等に関する市民の意識を更に向上させるなど、脱炭素社会の実現に向けて、市の環境施策の重要度は増大していくものと考える。															
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R9年度の方向性	コスト	成果	改善	
				拡充↑	拡充↑	①	政策の進め方
豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくりを進めるためには、自然環境の保全、一級河川菊川の水質保全、循環型社会の構築、カーボンニュートラルに向けた取組を着実に進めるほか、市全体において市民・事業者等の意識変革と行動変容が重要である。今後も地球温暖化対策のほか、循環型社会の構築など、製品プラスチック資源循環等ごみを資源化する取組を進め、更なるごみ減量化・資源化を推進していく。令和5年2月の「ゼロカーボンシティ」宣言を踏まえ、2050年までの温室効果ガス排出量実質ゼロの達成に向けて、環境施策の一層の推進を図る必要がある。							

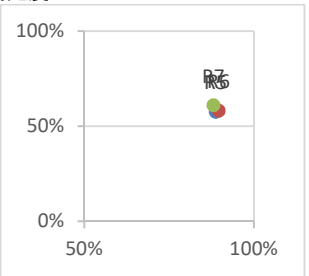
政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち														作成部署	
R7	政策	5 良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり														建設経済部	
		SDGsゴール	9	11	15												
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度							
	政策事業費(予算)	1,599,869	4,010,415	3,497,887	1,749,888	政策費増減額	417,286	2,410,546	△ 512,528	△ 1,747,999							
						比較	135%	251%	87%	50%							
	政策事業費(決算)	1,393,317	1,571,605	3,152,028		一般財源増減額	5,366	632,859	340,234	△ 951,881							
						比較	101%	274%	134%	29%							
	コスト分析と課題	道路、橋梁、公園などのインフラ整備と維持管理は、交通の利便性向上や安全・安心、憩いの場の提供といった、市民生活には欠かせないものであり、市の魅力向上にもつながるため、引き続き魅力あるまちづくりに繋げていく必要がある。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	5 良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度								
	「市内外にスムーズに移動できる道路が整備されたまち」だと思ふ市民の割合	%	59.4	64.0	57.5	58.1	60.9	64.0	95.2%	B	B						
	関連する施策																
	「利用しやすい交通手段が確保されたまち」だと思ふ市民の割合	%	43.5	59.0	39.9	40.7	43.7	59.0	74.1%	B	D						
	関連する施策																
	「市民の憩いの場として整備された公園があるまち」だと思ふ市民の割合	%	56.6	62.0	57.0	58.3	57.9	62.0	93.4%	B	B						
	関連する施策																
	都市計画道路の整備率	%	63.5	65.5	66.8	67.8	68.4	65.5	104.4%	S	B						
	関連する施策																
	コミュニティバス1日当りの利用者数	人／日	124.0	145.0	129.0	153.0	170.0	145.0	117.2%	S	A						
	関連する施策																
	関連する施策																
関連する施策																	
指標分析と課題	(都)青葉通り嶺田線(市)井筒堂線(都)西方高橋線(掛浜バイパス)、(市)大須賀金谷線などの整備を進めている。広域的幹線道路としての役割が大きいので早期完成を目指していく。また、JR菊川駅南北自由通路橋上駅舎化事業を計画どおりに進め早期に事業効果を発現させる必要がある。 コミュニティバスの1日当たりの利用者数は年々増加している。引き続き利用促進を図っていく。																
評価分析	関連施策																
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△									
			成果1	成果2	判定評価	R9の方向性											
			コスト	成果	改善												
	1 地球温暖化対策・自然環境の保全を推進します	環境推進課	B		A	拡充	拡充	①	拡充化○								
	2 水質浄化・生活環境の改善を進めます	下水道課	S		A	維持	維持	①									
	3 循環型社会の推進を図ります	環境推進課	現未		A	維持	拡充	③	拡充化○								
4 適正な汚水処理施設の管理・運営を進めます	下水道課	B		A	維持	維持	①										

市民アンケート結果

設問	1	「市内外にスムーズに移動できる道路が整備されたまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	結果(満足度下段:達成率)								
			R5年度	R6年度	R7年度						
満足度	59.4%	64.0%	57.5%	58.1%	60.9%	そう思う(満足)		14.2%			
						どちらかといえば思う		46.7%			
						どちらかといえば思わない		29.0%			
			89.8%	90.8%	95.2%	そう思わない(不満)		9.4%			
重要度			88.8%	89.6%	88.1%	重要		41.7%			
						どちらかといえば重要		46.4%			
						重要ではない		10.6%			

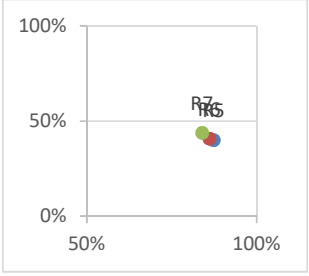
満足度



重要度

設問	2	「利用しやすい交通手段が確保されたまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	R5年度	R6年度	R7年度						
満足度	43.5%	59.0%	39.9%	40.7%	43.7%	そう思う(満足)		8.9%			
						どちらかといえば思う		34.8%			
			67.6%	69.0%	74.1%	どちらかといえば思わない		39.9%			
						そう思わない(不満)		15.7%			
重要度			87.4%	86.1%	84.0%	重要		40.3%			
						どちらかといえば重要		43.7%			
						重要ではない		14.5%			

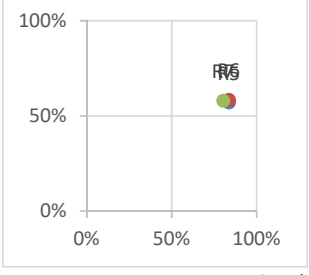
満足度



重要度

設問	3	「市民の憩いの場として整備された公園があるまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	R5年度	R6年度	R7年度						
満足度	56.6%	62.0%	57.0%	58.3%	57.9%	そう思う(満足)		12.2%			
						どちらかといえば思う		45.7%			
			91.9%	94.0%	93.4%	どちらかといえば思わない		32.7%			
						そう思わない(不満)		8.4%			
重要度			83.8%	83.8%	80.4%	重要		27.8%			
						どちらかといえば重要		52.6%			
						重要ではない		18.0%			

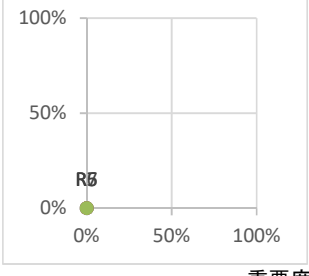
満足度



重要度

設問											
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	R5年度	R6年度	R7年度						
満足度						そう思う(満足)					
						どちらかといえば思う					
						どちらかといえば思わない					
						そう思わない(不満)					
重要度						重要					
						どちらかといえば重要					
						重要ではない					

満足度



重要度

結果分析	市民アンケート結果については、満足度において設問1から設問2まで開始時以上、昨年度以上、設問3は開始時以上、昨年度以下となった。各項目ともに上昇となるよう、JR菊川駅南北自由通路橋上駅舎化事業や(都)青葉通り嶺田線((市)井矯正線)を始めとした各種インフラ整備を進めていく必要がある。 また、市民の憩いの場である公園については適正な維持管理が必要である。										
総合判定評価	A	見直し・検討無し				R9年度の方向性	コスト	成果	改善		
							拡充↑	拡充↑	①	政策の進め方	

本市を選んでもらうためにも、良好な住環境や道路・公園の整備は重要である。ポテンシャルの高いインフラ整備を計画的に進め、人口減少の抑制に繋げていく必要がある。引き続き、本市を選んでもらい、住みよい菊川市を目指し、幹線道路の整備及び公園の維持管理を計画的に進めていく。また、コミュニティバスの運行については交通結節点・都市拠点・地域を結ぶ路線になるように計画する必要がある。

23

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち														作成部署	
R7	政策	6 上水道が安全に安定して供給されるまちづくり														生活環境部	
		SDGsゴール	6														
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度							
	政策事業費(予算)	8,418	8,237	7,783	7,505	政策費増減額	△ 373	△ 181	△ 454	△ 278							
						比較	96%	98%	94%	96%							
	政策事業費(決算)	8,418	8,237	7,783		一般財源増減額	△ 373	△ 181	△ 454	△ 278							
						比較	96%	98%	94%	96%							
	コスト分析と課題	上水道事業は、安定した水資源の確保と安全で良質な水質管理がされており、水道事業会計において適正に処理されている。 ただし、人口減少に伴う水道料金収入の減少や水道施設の更新需要の増大、自然災害への備えなど、様々な経営課題に対応し、安全で強靱な水道経営を持続するために、菊川市水道料金審議会にて適切な料金設定について審議している。															
指標評価	総合計画											行政評価					
	6 上水道が安全に安定して供給されるまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価						
			A	B	C			D	C/D								
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度								
	「上水道が安定して供給されているまち」と思う市民の割合	%	83.0	88.0	84.5	84.8	85.6	88.0	97.3%	B	B						
	関連する施策																
	上水道有収率	%	85.7	90.0	84.3	84.3	83.7	90.0	93.0%	現未	B						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	指標分析と課題	上水道が安定して供給されるまちだと思う市民の割合は、平成27年度の現状値を上回ったが、目標値を達成することはできなかった。上水道有収率については、平成27年度の現状値を下回る結果となった。有収率の減は、管路の老朽化に伴う漏水事案の増加によるものと考えられる。漏水事案を抑制するためには、老朽管の更新を計画的に進める必要があるが、更新にかかる費用負担の増が課題であるとする。															
関連施策																	
評価分析	施策名				担当課		指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△					
							成果1	成果2	判定評価	R9の方向性							
										コスト	成果	改善					
	1 安定した水資源の確保と総合的な水質管理体制の構築を図ります				水道課		現未		A	維持	維持	①					
	2 管路の整備及び改良を進めます				水道課		S		A	維持	維持	①					
	3 水道施設の管理及び整備を進めます				水道課		S		A	維持	維持	①					
4 安定財源の確保を図り、健全な事業経営を継続します				水道課		S		A	維持	維持	①						

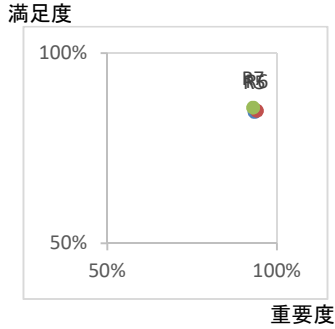
市民アンケート結果

総合評価

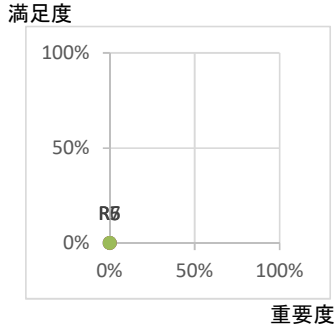
市民アンケート結果

総合評価

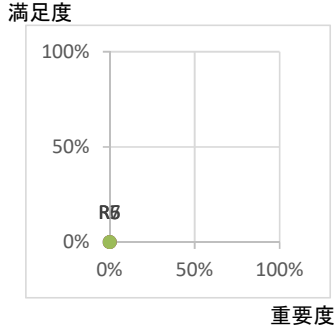
設問	1	「上水道が安定して供給されているまち」と思う市民の割合					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	83.0%	88.0%	84.5%	84.8%	85.6%	そう思う(満足)	30.1%
						どちらかといえば思う	55.5%
						どちらかといえば思わない	11.2%
						そう思わない(不満)	2.4%
重要度			93.4%	94.1%	93.0%	重要	52.8%
						どちらかといえば重要	40.2%
						重要ではない	5.7%



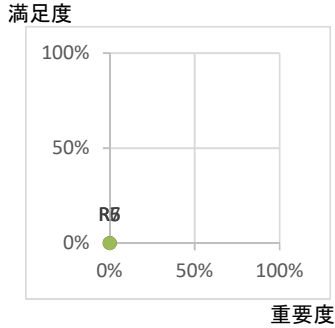
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

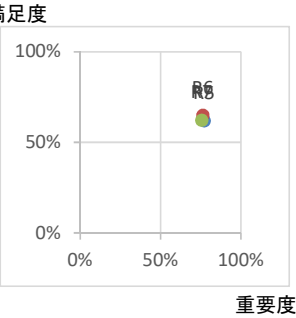
満足度は目標値である88.0%に対し、平成27年度の83.0%から85.6%に上昇し、達成率は97.3%であった。重要度は93.0%であり数値は高い水準で推移している。市民アンケートによる満足度も上位をキープしており、大井川広域水道企業団から安定的な受水を継続していることが市民満足度が高い要因となっていると考ええる。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討（一部施策）	R9年度の方向性	コスト	成果	改善	
				拡充↑	拡充↑	①	政策の進め方
「上水道が安全に安定して供給されるまちづくり」を進めるためには、水道事業経営戦略を基に、適切な料金設定による水道料金収入をもって計画的に事業を推進していく必要がある。今後、想定される人口減少に伴う水需要の減や、上水の安定供給のため、管路や水道施設の更新などに対応していく必要がある。							

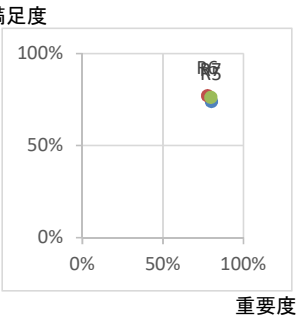
政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち																作成部署		
R7	政策	1 市民と行政との協働によるまちづくり																総務部		
		SDGsゴール	16	17																
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)													
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度										
		政策事業費(予算)	181,499	207,270	225,058	227,688	政策費増減額	△ 1,817	25,771	17,788	2,630									
							比較	99%	114%	109%	101%									
		政策事業費(決算)	172,852	200,014	218,498		一般財源増減額	429	7,490	16,289	11,443									
							比較	100%	105%	109%	106%									
	コスト分析と課題		第2次菊川市総合計画の基本目標5「まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち」の実現に向け、市民と行政との協働によるまちづくりに取り組んだ。1%地域づくり活動交付金は、運用開始から17年目となるが、毎年一定数新規の活動に関する申請があり、行政提案課題への取り組みを実施していただける団体もある。また、若者の「やりたい、やってみたい」活動に対し支援する、ことも・若者参画支援交付金を創設した。市民と行政による協働のまちづくりの意識を一層高めていくために重要な予算である。地区センター管理費、庁舎東館管理費は電気料などの高騰や人件費の上昇により、コスト増となった。また、菊川地区の地区センターが建築後40年以上経過し経年劣化による修繕にコストがかかる状況となっている。引き続き適正な維持管理に努めるとともに長寿命化を図っていく。																	
	総合計画																			行政評価
	指標評価	1 市民と行政との協働によるまちづくり		単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価							
					H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度									
「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」だと思ふ市民の		%	59.3	69.0	61.8	64.9	62.2	69.0	90.1%	B	B									
関連する施策																				
「広報誌・市ホームページ・出前講座などを通して市の情報が発信されているまち」だと思ふ市民の		%	72.3	82.0	73.9	77.1	76.1	82.0	92.8%	B	B									
関連する施策																				
市ホームページへのアクセス件数(年間)		件	290,335.0	315,000.0	634,646.0	650,309.0	559,399.0	315,000.0	177.6%	S	S									
関連する施策																				
市民協働センターへの団体登録数		団体	0.0	90.0	88.0	97.0	98.0	90.0	108.9%	S	B									
関連する施策																				
指標分析と課題																				
	関連する施策																			
	関連する施策																			
	関連する施策																			
	関連する施策																			
	関連する施策																			
指標分析と課題		「地域のコミュニティ活動が市のまちづくりに活かされているまち」については、H27の現状値からプラス2.8ポイントとなり、各地区のコミュニティ協議会による活動の成果である。「広報誌・市ホームページ・出前行政講座を通して市の情報が発信されているまち」については、H27の現状地からプラス3.8ポイントとなった。また、「市ホームページへのアクセス件数」は、H27の現状値からプラス269,064件となっており、これは近年取り組んでいるSNSを活用した情報発信が寄与している。市公式SNSのフォロワー数も25,923人(R8.3.31)となっており、動画等を活用した効果的な情報発信に取り組んできた成果と言える。「市民協働センターへの登録団体数」は、H27の現状値からプラス98団体となった。これは市民協働センターを核として市民活動に取り組む団体との連携の成果であり、引き続き支援を行っていく。																		
評価分析	関連施策																			
	施策名				担当課				指標評価		総合判定評価				R9年度 拡充化 ○ 縮減化 △					
											R9の方向性									
	判定 評価		コスト		成果		改善													
	1 地域のために活動している市民や団体を支援します				地域支援課				C		A	維持	維持	①						
	2 まちづくりを進めるために市政情報を共有します				市長公室				S		A	維持	拡充	①						
	3 地域文化の交流を通して人のつながりを地域の活性化に活かします				地域支援課				S		A	維持	維持	①						

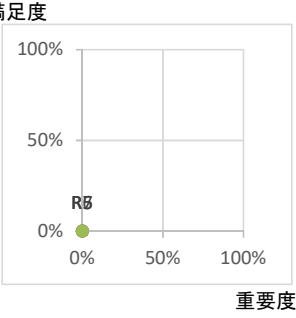
設問	1		「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」だと思ふ市民の				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	59.3%	69.0%	61.8%	64.9%	62.2%	そう思う(満足)	7.6%
						どちらかといえば思う	54.6%
			89.6%	94.1%	90.1%	どちらかといえば思わない	32.3%
						そう思わない(不満)	4.0%
重要度			77.2%	76.4%	75.7%	重要	17.4%
						どちらかといえば重要	58.3%
						重要ではない	22.3%



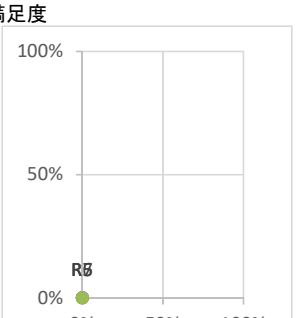
設問	2	「広報誌・市ホームページ・出前講座などを通して市の情報が発信されているまち」だと					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	72.3%	82.0%	73.9%	77.1%	76.1%	そう思う(満足)	14.8%
						どちらかといえば思う	61.3%
			90.1%	94.0%	92.8%	どちらかといえば思わない	19.3%
						そう思わない(不満)	3.6%
重要度			80.1%	77.8%	79.9%	重要	20.3%
						どちらかといえば重要	59.6%
						重要ではない	18.6%



設問								
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	結果(満足度下段:達成率)					
			R5年度	R6年度	R7年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



設問								
区分	開始時 H27年度	目標値 R7年度	結果(満足度下段:達成率)					
			R5年度	R6年度	R7年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
重要度						そう思わない(不満)		
						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



結果分析	「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」だと思ふ市民の割合は、R2年3月にプラザきくる(庁舎東館)がオープンし市民協働センターもあわせて移転したことでR3の市民アンケート結果では大きく上昇した。その後のアンケート結果は横ばいであるがH27の現状値からはプラス2.9ポイントとなった。また、「広報誌・市ホームページ・出前行政講座などを通して市の情報が発信されているまち」だと思ふ市民の割合は、R2に市公式LINE及びX(旧Twitter)を開設するなど積極的な情報発信を行ったことにより、満足度は大きく上昇した。「市ホームページへのアクセス件数」「市公式SNSのフォロワー数」も大きく伸びており、引き続きホームページやSNS、自治体広報情報サービス(dボタン)といった、各媒体の特性を活かしたでの情報発信を進めていき、満足度が高まるよう努めていく。																
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

総合判定評価	B	軽微な見直し検討（一部施策）	R9年度の方向性	コスト	成果	改善	
				維持→	拡充↑	①	政策の進め方
第3次総合計画・魅力目標5・躍動・政策6「市民と行政が共に創る未来のまちづくり」を推進するうえで、持続可能な地域活動・市民活動が展開されるよう、市民協働センターを核として、コミュニティ協議会・市民活動団体・NPOとのマッチングを図るなど、市としてもサポートを進めていく。また、令和6年度からは、子ども・若者参画支援交付金を創設し、活動実施年度に交付金の申請が行える仕組みとなったことから、子どもや若者がまちづくりに参画する機運を高めていき、地域活動の新たな担い手として活躍できるよう支援していく。 自治会は行政の大切なパートナーであり、その協力無くして、まちづくりは進められない。策定した「自治会の負担軽減に向けた取組方針」により、全庁を挙げて、自治会の負担軽減に引き続き取り組んでいくとともに、地域コミュニティ活動の拠点である地区センターの維持管理・長寿命化を適正に行っていく。 市民に届く情報発信、菊川市の魅力が伝わる情報発信が求められている。これまでも広報紙の充実や利便性の高いホームページ作成を行うとともに、SNSを活用した即時性の高い情報発信にも取り組んできた。引き続き効果的な情報発信等について努めていく。							

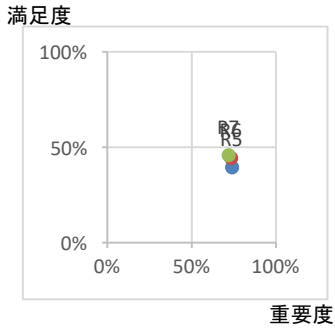
政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち														作成部署	
R7	政策	2 まちの元気・魅力が発信されるまちづくり														総務部	
		SDGsゴール	11	17													
コスト評価		事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)										
		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度							
	政策事業費(予算)	17,072	21,221	18,415	23,827	政策費増減額	6,609	4,149	△ 2,806	5,412							
						比較	163%	124%	87%	129%							
	政策事業費(決算)	13,563	12,773	13,259		一般財源増減額	2,188	3,337	△ 458	2,688							
						比較	149%	150%	95%	128%							
	コスト分析と課題	知名度向上に向けての事業では、市制20周年記念事業はR6で終了したが、魅力発信をミッションとした地域おこし協力隊を1人委嘱したこと、また、交流人口・関係人口拡大に向けた多様な取り組みを実施したことでコストは上昇した。また、移住・定住に向けた取組では結婚新生活支援事業費補助金の申請増加によりコストは上昇している。少子化・人口減少対策は重要課題であり、移住先として選ばれるための知名度向上や出会い・結婚支援、移住施策について、引き続き国の交付金などを活用し事業を実施していく。															
指標評価	総合計画										行政評価						
	2 まちの元気・魅力が発信されるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標 評価						
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度								
	「市内外に市の魅力が発信されているまち」 だと思う市民の割合	%	31.1	46.0	39.5	44.3	45.9	46.0	99.8%	B	B						
	関連する施策																
	「菊川市に行ったことがある」「菊川市を知 っている」と回答した人の割合	%	63.8	90.0以上	—	—	—	90.0以上	—	—	—						
	関連する施策																
	新聞(静岡・中日)への掲載件数(年間)	件	380.0	410.0	330.0	315.0	265.0	410.0	64.6%	現未	E						
	関連する施策																
	関連する施策																
	関連する施策																
	指標分析と課題	「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思う市民の割合は、H27の現状値からプラス14.8ポイントとなり大きく上昇している。これは、R2年度に市公式LINE及びX(旧Twitter)を開設したことにより様々な媒体で効果的な情報発信をした結果である。市公式SNSのフォロワー数も25,923人(R8.3.31)と大幅に増加している。 一方で、新聞への年間掲載件数はH27の現状値から減少したが、引き続き適切な時期の情報提供、情報提供内容の工夫など情報の質を向上させるよう改善に取り組んでいく。															
評価分析	関連施策																
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△									
			成果 1	成果 2	判定 評価	R9の方向性											
					コスト	成果	改善										
	1 知名度向上に向けて情報を発信します	市長公室	B		A	維持	拡充	①	拡充化○								
	2 移住・定住に関する情報を積極的に発信します	市長公室	S		A	維持	拡充	①	拡充化○								

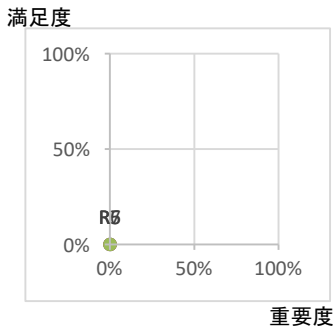
市民アンケート結果

総合評価

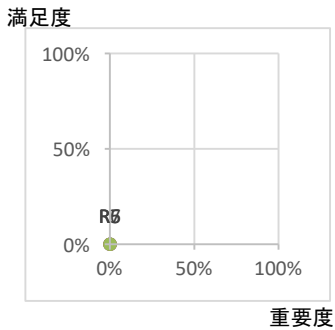
設問	1		「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思う市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	31.0%	46.0%	39.5%	44.3%	45.9%	そう思う(満足)	4.7%
						どちらかといえば思う	41.2%
			85.9%	96.3%	99.8%	どちらかといえば思わない	43.5%
						そう思わない(不満)	9.1%
重要度			73.9%	73.4%	71.9%	重要	19.5%
						どちらかといえば重要	52.4%
						重要ではない	26.0%



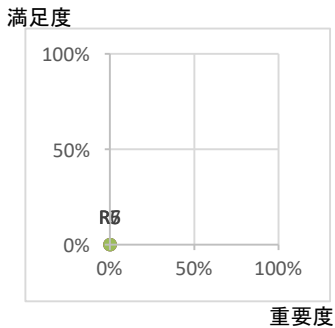
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思う市民の割合は、大幅に上昇している。これはSNSなどの各種媒体を活用した情報発信や魅力発信をミッションとした地域おこし協力隊による活動、さらには「きくがわ応援大使」を活用したPRなどに取り組んできた結果である。

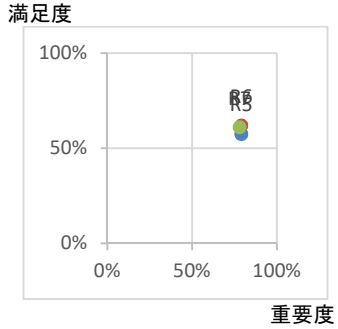
総合判定評価	B	軽微な見直し検討（一部施策）	R9年度の方向性	コスト	成果	改善	
				拡充 ↑	拡充 ↑	③	政策内容
3次総合計画・魅力目標5・躍動・政策6「市民と行政が共に創る未来のまちづくり」及び政策7「人が集まり、住み続けたいまちづくり」を推進するうえで、地域おこし協力隊やきくがわ応援大使と連携し本市の魅力創出や市内外への魅力発信を促進していく必要がある。また、あらゆる媒体を組み合わせることで本市の情報をわかりやすく伝えていく必要がある。それらの取り組みを、移住・定住・交流や人口確保につなげるため、引き続き積極的に取り組んでいく。							

政策評価シート

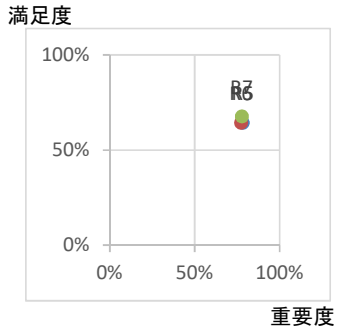
対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち														作成部署		
R7	政策	3 性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり														総務部		
		SDGsゴール	5	10	16	17												
コスト評価		事業費と割合(千円)									予算額比較(千円)							
		R5年度		R6年度		R7年度		R8年度			R5年度		R6年度		R7年度		R8年度	
	政策事業費(予算)	10,177		9,093		10,942		13,731		政策費増減額	△ 184	△ 1,084	1,849		2,789			
										比較	98%	89%	120%		125%			
	政策事業費(決算)	9,981		8,816		10,648				一般財源増減額	△ 147	△ 1,602	3,170		2,064			
										比較	98%	77%	159%		124%			
	コスト分析と課題	令和3年度に策定した「第4次菊川市男女共同参画プラン」及び「第4次菊川市多文化共生推進行動指針」は終期が令和8年度のため、令和6年度に中間見直しを実施した。令和8年度には両計画の第5次の計画を策定する予定である。また、人権擁護活動は、幼保施設や小学校で人権教室を実施した。 男女共同参画・多文化共生・人権擁護とも、その推進に向けては、市民の皆さまの意識を醸成することが不可欠であるため、より訴求対象に届く周知を行っていく必要があり、適正な予算確保・執行が必要となる。特に、多文化共生については国の交付金が減少傾向であるため、その必要性についてしっかりと要望していく必要がある。																
指標評価	総合計画																	行政評価
	3 性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価							
			A	B	C			D	C/D									
			H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度									
	「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を発揮できるまち」だと思う市民の割合	%	48.6	64.0	57.3	61.9	60.9	64.0	95.2%	B	B							
	関連する施策																	
	「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」だと思う市民の割合	%	57.1	67.0	64.3	67.0	67.6	67.0	100.9%	S	B							
	関連する施策																	
	市協議会、委員会などの女性登用率	%	26.5	33.3	28.5	29.0	29.3	33.3	88.0%	B	C							
	関連する施策																	
	多文化共生サポーター数	人	0.0	10.0	36.0	37.0	38.0	10.0	380.0%	S	S							
	関連する施策																	
関連する施策																		
関連する施策																		
指標分析と課題	「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を発揮できるまち」は、H27の現状値からプラス12.3ポイントと大幅に上昇した。国の第5次男女共同参画基本計画の閣議決定により男性の育児休業取得などが促進された結果である。「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」は、H27の現状値からプラス10.5ポイントと大幅に上昇した。これは、本市における外国人相談窓口の設置や多言語での情報発信など外国人住民施策を充実させた結果である。また、市協議会、委員会などへの女性登用率は、H27の現状値からプラス2.8ポイントとなったが、分野によっては依然として0%の委員会等もあり、より広範な分野で女性の視点を生かす取り組みが求められる。 多文化共生サポーター数は、H27の現状値からプラス38人となった。																	
評価分析	関連施策																	
	施策名				担当課				指標評価		総合判定評価			R9年度 拡充化○ 縮減化△				
											判定評価	R9の方向性						
	成果1	成果2	コスト	成果	改善													
	1 男女が平等な立場で参画できる社会づくりに取り組みます				地域支援課				B		A	維持	維持	①				
	2 外国人が暮らしやすい環境を整備します				地域支援課				S		A	維持	維持	①				
	3 人権擁護活動を推進します				市民課				B		A	維持	維持	①	拡充化○			

市民アンケート結果

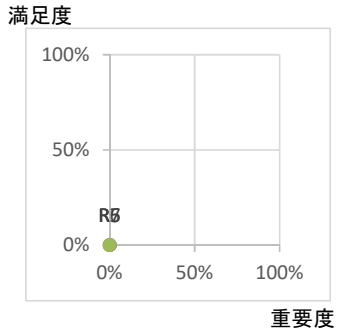
設問	1		「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を発揮できるまち」だと思う市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	48.5%	64.0%	57.3%	61.9%	60.9%	そう思う(満足)	7.1%
						どちらかといえば思う	53.8%
			89.5%	96.7%	95.2%	どちらかといえば思わない	31.8%
						そう思わない(不満)	5.1%
重要度			79.0%	79.0%	78.1%	重要	20.2%
						どちらかといえば重要	57.9%
						重要ではない	19.3%



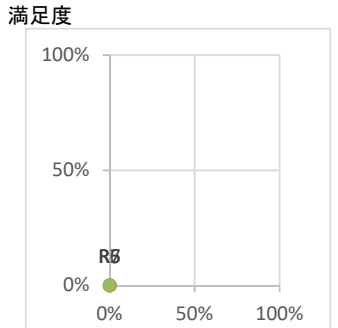
設問	2		「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」だと思う市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	57.1%	67.0%	64.3%	64.3%	67.6%	そう思う(満足)	8.6%
						どちらかといえば思う	59.0%
			96.0%	96.0%	100.9%	どちらかといえば思わない	25.5%
						そう思わない(不満)	5.3%
重要度			78.4%	77.3%	77.8%	重要	20.8%
						どちらかといえば重要	57.0%
						重要ではない	20.1%



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	

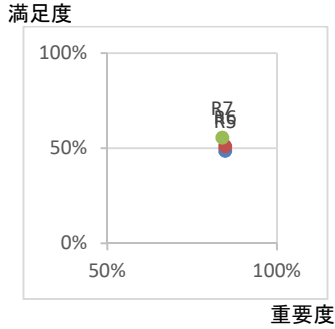


結果分析	「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を発揮できるまち」「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」は、それぞれH27の現状値から大幅に上昇した。国の第5次男女共同参画基本計画の閣議決定により男性の育児休業取得などが促進された結果や、本市における外国人住民施策を充実させた結果である。											
	総合判定評価		A	見直し・検討無し			R9年度の方向性		コスト 維持→	成果 拡充↑	改善 ① 政策の進め方	
3次総合計画・魅力目標4・快適・政策5「個々人の違いが尊重され、受け入れられるまちづくり」を推進するうえで、新たな「第5次男女共同参画プラン」及び「第5次多文化共生推進行動指針」の策定を着実に進め、それぞれに記載された計画を着実に推進していく必要がある。共同参画及び多文化共生への市民理解が深まるよう様々な支援や地域づくりなどに取り組んでいく。												

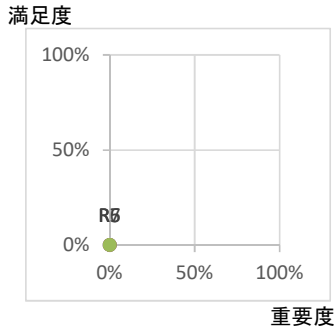
政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち														作成部署		
R7	政策	4 未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり														企画財政部		
		SDGsゴール	8	10	11	16	17											
コスト評価		事業費と割合(千円)									予算額比較(千円)							
		R5年度		R6年度		R7年度		R8年度			R5年度		R6年度		R7年度		R8年度	
	政策事業費(予算)	668,454		3,216,170		1,314,272		850,558		政策費増減額	△ 724,098		2,547,716		△ 1,901,898		△ 463,714	
										比較	48%		481%		41%		65%	
	政策事業費(決算)	645,483		3,188,562		1,269,522				一般財源増減額	15,210		13,941		102,841		47,364	
										比較	103%		102%		117%		107%	
	コスト分析と課題	事業費は令和6年度よりも大幅に減額している。減額の要因は、令和6年度の増額要因となった。防災対策強靱化事業分担金や臨時財政対策債償還基金費を基金に積み立てがなくなったことによるものであるが、令和6年度に引き続き、自治体情報システム標準化・共通化に向けた事業費は増額している。自治体システムの標準化・共通化における初期構築費は減少するが、今後は運用費の増加が見込まれるため、最適化が課題となっている。																
指標評価	総合計画																	行政評価
	4 未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり							単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価	
									A	B	C			D	C/D			
									H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度	R7年度	R7年度			
	「効率的・効果的な行財政運営が行われているまち」だと思う市民の割合							%	42.7	58.0	48.6	50.9	55.5	58.0	95.7%	B	B	
	関連する施策																	
	将来負担比率							%	49.3	40.0	算定なし (0%以下)	算定なし (0%以下)	未公表	40.0	—	—	—	
	関連する施策																	
	関連する施策																	
関連する施策																		
関連する施策																		
関連する施策																		
指標分析と課題							効率的・効果的な行財政運営が行われているまちだと思う市民の割合は、平成27年度の42.7%から12.8ポイント上昇し55.5%と大きく伸びたが、目標値には届かなかった。 様々な場面・媒体において市の取組を周知してきた結果が出ていると評価できる一方で、市民が効果的・効率的と感じる視点は一律ではないため、引き続き市の取組や財政状況を、分かりやすく周知していく必要がある。 将来負担比率は、令和3年度から令和6年度まで「算定なし」となり、令和7年度分は決算を基に今後算定作業が始まるが大きく悪化することはないと見込まれる。本指標は早期健全化比率である350%を大きく下回っていることから、財政状況は健全とされる範囲内にあるが、今後も引き続き健全な財政運営に努めていく必要がある。											
評価分析	関連施策																	
	施策名								担当課		指標評価		総合判定評価					R9年度 拡充化○ 縮減化△
													判定 評価	R9の方向性				
	成果 1	成果 2	コスト	成果	改善													
	1 市役所の組織力を高めます								総務課		S		A	拡充	拡充	①		
	2 ICT(情報通信技術)を活用し効率的な行政運営をします								企画政策課		S		A	拡充	拡充	①	拡充化○	
	3 健全で安定した行財政運営を構築します								財政課		現未		A	維持	維持	①	拡充化○	
	4 新公共経営と共創による行政運営を推進します								財政課		現未		A	維持	維持	①		
	5 他市町との広域連携を推進します								企画政策課		C		B	縮小	維持	①		

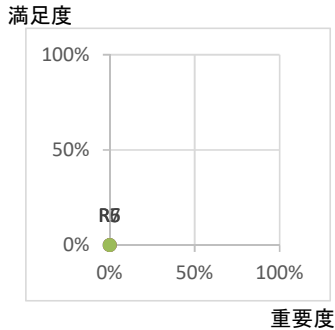
設問	1		「効率的・効果的な行財政運営が行われているまち」だと思う市民の割合				
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度	42.7%	58.0%	48.6%	50.9%	55.5%	そう思う(満足)	4.8%
						どちらかといえば思う	50.7%
			83.8%	87.8%	95.7%	どちらかといえば思わない	34.7%
						そう思わない(不満)	7.7%
重要度			84.8%	84.8%	83.9%	重要	32.7%
						どちらかといえば重要	51.2%
						重要ではない	13.9%



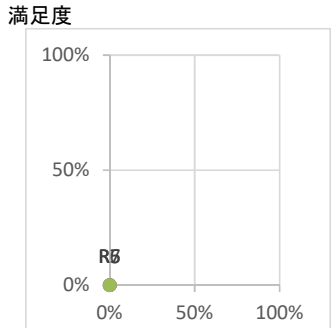
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析

満足度55.5%は前年度より4.6ポイント、開始時(H27)より12.8ポイント上昇しており、市の取組についての情報発信を強化してきた成果であると考え。重要度はわずかに下がったが、依然83.9%と高く、急激な人口減少や少子高齢化が進む中、行財政改革を重要だと考える市民が多いことがうかがえる。

今後も引き続き、デジタル化、行財政改革、民間活力の活用などによる効率的・効果的な行財政運営を進め、広報紙やSNSなど様々な媒体を通じ、市民の皆さまに分かりやすく伝えていく必要がある。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討（一部施策）	R9年度の方向性	コスト	成果	改善	
				拡充 ↑	拡充 ↑	①	政策の進め方
人口減少が進む中、複雑化・多様化する行政ニーズに的確に対応し、持続的かつ安定的に行政サービスを提供していくためには、人材や予算など限られた資源を活用し、最大限の効果を上げていく必要がある。							
人材育成や機能的な組織の構築により組織力を高めるとともに、財政運営においてはコスト削減とあわせ、ふるさと納税や企業版ふるさと納税、ガバメントクラウドファンディングなど寄附事業による自主財源確保に特に注力し、取組を強化していく。							
限られた職員による業務執行のためには、AIやRPAの活用などDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進も不可欠となる。DXには相応のコストが必要となるが、情報システムを含む庁内ネットワーク全体の最適化を図るなどコストダウンにつながる取組も推進し、市民サービスの向上と効率的な行政運営の推進を図っていく。							